

令和元年度
北秋田市教育委員会
点検・評価報告書

令和2年10月
北秋田市教育委員会

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

点検及び評価の対象年度　：　令和元年度

＜構成内容＞

1　点検・評価の趣旨等　・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1

- (1) 点検・評価の趣旨
- (2) 点検・評価の対象
- (3) 点検・評価の方法
- (4) 学識経験者の知見の活用
- (5) 報告書の作成経緯
- (6) 北秋田市教育委員会教育長・委員名簿

2　教育委員会の会議開催状況　・・・・・・・・ P 3

3　教育委員会の会議審議状況　・・・・・・・・ P 3

○令和元年度　教育委員会審議案件一覧

- (1) 令和元年度　附議案件
- (2) 令和元年度　承認案件
- (3) 令和元年度　報告案件
- (4) 令和元年度　その他案件

4　総合教育会議開催状況　・・・・・・・・ P 7

○令和元年度　総合教育会議審議案件一覧

- (1) 令和元年度　審議案件

5　教育事務の点検評価書【総合点検・評価】　・・・・ P 7

6　主要事務事業点検・評価票　・・・・・・・・ P 9

【点検・評価対象事務事業一覧】

【個別点検・評価票】

1 点検・評価の趣旨等

(1) 点検・評価の趣旨

本報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条に基づき、令和元年度の教育委員会事務の点検及び評価を行い、これを議会に提出するとともに、公表するものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 点検・評価の対象

本報告書の点検・評価は、令和元年度の事務・取組を対象として実施しています。また、学校教育や社会教育に関することなど、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条で教育委員会の職務権限とされ、本市教育委員会が所管するすべての事務のうち、第2次北秋田市総合計画実施計画（H31～H33）に登載された事務事業を主な対象としています。

(3) 点検・評価の方法

第2次北秋田市総合計画実施計画（H31～H33）に登載された事務事業を主として、①学校教育の充実、②生涯学習の充実、③芸術・文化の継承と振興、④スポーツの振興の4施策、63事務事業について、年度当初に設定した評価指標に基づき、次の4項目について内部評価を実施しました。

【有効性】 1＝期待以下（90%以下）、2＝期待どおり（90%超）、3＝期待以上（100%超）

【費用対効果】 1＝課題有り（90%以下）、2＝予定どおり（90%超）、3＝予想以上（100%超）

【必要性】 1＝低い、2＝高い、3＝不可欠

【方向性】 1＝廃止・休止（終了）、2＝縮小、3＝統合、4＝継続、5＝拡大

(4) 学識経験者の知見の活用

点検・評価にあたっては、客観性を確保するため、学識経験者2名を評価委員に委嘱し、個別に意見をいただきました。

北秋田市教育委員会点検評価委員 濱田 純 氏

北秋田市教育委員会点検評価委員 佐々木 潤子 氏

(5) 報告書の作成経緯

報告書の作成は次のように行いました。

6月25日 教育委員会6月定例会で、令和元年度点検・評価報告書(案)説明

7月30日 教育委員会7月定例会で、北秋田市教育委員会点検評価委員選任

教育委員会7月定例会で、令和元年度点検・評価報告書(案)審議

9月18日 点検評価会議を開催し、点検評価委員から意見聴取

9月30日 教育委員会9月定例会で、点検評価委員からの意見について報告

10月29日 教育委員会10月定例会で、令和元年度点検・評価について議決 → 公表

(6) 北秋田市教育委員会教育長・委員名簿

(令和2年3月31日現在)

職 名	氏 名	委員任期
教 育 長	佐 藤 昭 洋	平成29年5月1日 ～令和2年4月30日
委 員 (教育長職務代理者)	佐 藤 正 俊	平成28年5月14日 ～令和2年5月13日
委 員	佐 藤 英 樹	令和元年5月14日 ～令和5年5月13日
委 員	藤 本 基 子	平成30年5月14日 ～令和4年5月13日
委 員	蒔 苗 隆	平成30年10月10日 ～令和3年5月13日

2 教育委員会の会議開催状況

教育委員会会議については、原則として毎月1回の「教育委員会定例会」と、状況に応じた「教育委員会臨時会」を開催しています。令和元年度は、合計で14回開催しました。

(1) 教育委員会定例会・・・12回

(2) 教育委員会臨時会・・・2回

No	開催日	案件数				所用時間	出席 委員数	備考
		議決	承認	報告	その他			
1	H31. 4. 24	8		1	2	116分	4	
2	R1. 5. 14	3				66分	4	臨時会
3	R1. 5. 30	2			2	83分	4	
4	R1. 6. 27	1			2	100分	3	
5	R1. 7. 25	4			2	98分	4	
6	R1. 8. 29	2	1		2	105分	4	
7	R1. 9. 26				2	95分	4	
8	R1. 10. 31	3			2	106分	3	
9	R1. 11. 28	2			2	70分	4	
10	R1. 12. 26	2			2	110分	4	
11	R2. 1. 30	4			3	115分	3	
12	R2. 2. 20	9			2	205分	3	
13	R2. 2. 28	1				70分	4	臨時会
14	R2. 3. 26	8		1	2	135分	4	
	計	49	1	2	25	1474分	52	

※出席委員数に教育長は含みません。

3 教育委員会の会議審議状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第25条及び北秋田市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則（平成17年教育委員会規則第6号）第2条の規定に基づき令和元年度は合計で49件について審議しました。

<令和元年度 教育委員会審議案件一覧>

(1) 令和元年度 附議案件

議案番号	件 名	提出年月日
H31年36	北秋田市教育委員会点検及び評価実施要綱の一部を改正する訓令の制定について	H31. 4. 24
37	総合的な学習の時間に関する補助金交付要領の制定について	H31. 4. 24
38	北秋田市花いっぱい運動推進事業補助金交付要領の制定について	H31. 4. 24
39	北秋田市子ども活動支援等補助金交付要領の制定について	H31. 4. 24
40	北秋田市女性活動支援等補助金交付要領の制定について	H31. 4. 24
41	北秋田市青少年育成等補助金交付要領の制定について	H31. 4. 24
42	北秋田市文化及び文化財保護継承事業補助金交付要領の制定について	H31. 4. 24
43	北秋田市芸術文化活動等補助金交付要領の制定について	H31. 4. 24

議案番号	件 名	提出年月日
44	平成30年度北秋田市一般会計補正予算（第8号）について	R1. 5. 14
45	工事請負契約の締結（鷹巣中学校校舎大規模改造工事）の北秋田市議会提出について	R1. 5. 14
46	県費負担教職員の内申について	R1. 5. 14
47	北秋田市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の北秋田市議会提出について	R1. 5. 30
48	令和元年度北秋田市一般会計補正予算（第1号）について	R1. 5. 30
49	服務監督者としての対応について	R1. 6. 27
50	北秋田市民ふれあいプラザ子育て世代支援スペース使用要綱の一部を改正する訓令の制定について	R1. 7. 25
51	令和元年度北秋田市一般会計補正予算（第2号）について	R1. 7. 25
52	北秋田市教育委員会点検・評価委員の委嘱について	R1. 7. 25
53	平成30年度北秋田市教育委員会点検・評価報告書について	R1. 7. 25
54	北秋田市通級による指導の実施に関する規定の一部を改正する訓令の制定について	R1. 8. 29
55	令和元年度北秋田市一般会計補正予算（第3号）について	R1. 8. 29
56	北秋田市公民館等に設置する輪転機の使用に関する要綱の制定について	R1. 10. 31
57	北秋田市立小中学校周年記念事業等補助金交付要領の制定について	R1. 10. 31
58	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	R1. 10. 31
59	平成31年度全国学力・学習状況調査の結果分析の公表について	R1. 11. 28
60	令和元年度北秋田市一般会計補正予算（第4号）について	R1. 11. 28
61	北秋田市小中学校条例の一部を改正する条例の北秋田市議会提出について	R1. 12. 26
62	北秋田市文化財の指定について	R1. 12. 26
R2年1	北秋田市体育施設条例の一部を改正する条例の北秋田市議会提出について	R2. 1. 30
2	北秋田市民プールの指定管理者の指定についての北秋田市議会提出について	R2. 1. 30
3	北秋田市営業師山スキー場の指定管理者の指定についての北秋田市議会提出について	R2. 1. 30
4	服務監督者としての対応について	R2. 1. 30
5	北秋田市立小中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定について	R2. 2. 20
6	北秋田市学校給食センター条例施行規則の一部を改正する規則の制定について	R2. 2. 20
7	北秋田市みちのく子供風土記館管理規則の一部を改正する規則の制定について	R2. 2. 20
8	北秋田市児童生徒就学援助費支給要綱の一部を改正する訓令の制定について	R2. 2. 20
9	北秋田市立学校児童生徒遠距離通学費補助金交付要綱の一部改正する訓令の制定について	R2. 2. 20
10	北秋田市立学校遠距離通学児童生徒スクールバス及びスクールタクシー利用要綱の一部を改正する訓令の制定について	R2. 2. 20
11	北秋田市立中学校における部活動の方針の制定について	R2. 2. 20
12	令和2年度北秋田市一般会計予算について	R2. 2. 20
13	令和元年度北秋田市一般会計補正予算（第5号）について	R2. 2. 20
14	県費負担教職員の内申について	R2. 2. 28
15	北秋田市招致外国青年の任用に関する規則の制定について	R2. 3. 26

議案番号	件 名	提出年月日
16	北秋田市A L Tコーディネーターの任用に関する規則の制定について	R2. 3. 26
17	北秋田市学校運営協議会規則の一部を改正する規則の制定について	R2. 3. 26
18	北秋田市公民館館長の委嘱について	R2. 3. 26
19	北秋田市公民館主事の委嘱について	R2. 3. 26
20	北秋田市伊勢堂岱縄文館館長の委嘱について	R2. 3. 26
21	北秋田市スポーツ推進委員の委嘱について	R2. 3. 26
22	北秋田市小中学校適正規模・配置再編プランの方針について	R2. 3. 26

※議案番号は、暦年による一連番号を記載。

(2) 令和元年度 承認案件

承認番号	件 名	提出年月日
2	専決処分の承認を求めることについて（教科用図書の採択について）	R1. 8. 29

※承認番号は、暦年による一連番号を記載。

(3) 令和元年度 報告案件

番号	件 名	提出年月日
H31年2	平成31年度北秋田市教育委員会機構図について	H31. 4. 24
R2年1	専決処理の報告について（北秋田市教育委員会事務局職員の任免について）	R2. 3. 26

(4) 令和元年度 その他案件

番号	件 名	提出年月日
1	教育長報告	H31. 4. 24
2	各課長所管報告	H31. 4. 24
3	教育長報告	R1. 5. 30
4	各課長所管報告	R1. 5. 30
5	教育長報告	R1. 6. 27
6	各課長所管報告	R1. 6. 27
7	教育長報告	R1. 7. 25
8	各課長所管報告	R1. 7. 25
9	教育長報告	R1. 8. 29
10	各課長所管報告	R1. 8. 29
11	教育長報告	R1. 9. 26
12	各課長所管報告	R1. 9. 26
13	教育長報告	R1. 10. 31
14	各課長所管報告	R1. 10. 31
15	教育長報告	R1. 11. 28
16	各課長所管報告	R1. 11. 28
17	教育長報告	R1. 12. 26
18	各課長所管報告	R1. 12. 26
19	教育長報告	R2. 1. 30
20	各課長所管報告	R2. 1. 30
21	小・中学校の卒業式並びに入学式について	R2. 1. 30
22	教育長報告	R2. 2. 20
23	各課長所管報告	R2. 2. 20
24	教育長報告	R2. 3. 26
25	各課長所管報告	R2. 3. 26

4 総合教育会議開催状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第76号）の施行により、平成27年度から「総合教育会議」を設置しています。

総合教育会議では、市長と教育委員会が協議を行い、教育に関する総合的な施策の大綱を策定する他、教育の条件整備など重点的に構すべき施策、児童・生徒等の生命・身体 の保護等緊急の場合に構すべき措置等について協議・調整を行います。令和元年度は2回開催しました。

＜令和元年度 総合教育会議審議案件一覧＞

（1）令和元年度 審議案件

番号	件 名	年月日
1	令和元年度主な教育施策について	R1. 5. 30
2	令和元年度主要教育施策の実施状況（上半期）及び令和2年度における教育に関する重点施策について	R1. 11. 28

5 教育事務の点検評価書【総合点検・評価】

令和元年度における教育委員会の予算額は、23億6,443万1千円で、前年度と比較して1億9,805万4千円増加していますが、一般会計に占める教育費の割合は約10.6%で、前年度に比べ約0.9%減少しています。

令和元年度における教育委員会の主要事務点検・評価については、次頁以降に示している63事業において実施しました。各事業の点検・評価結果の概要は次のとおりです。

「有効性」については、「北秋田市民ふれあいプラザ管理事業」「地域学校協働本部事業」「文化会館改修事業」「北秋田市スポーツ文化合宿等誘致促進事業」の4事業において「期待以上」の成果が得られたと評価しました。北秋田市民ふれあいプラザは、地域活性化を図る拠点施設として、利用者や来館者の交流の場となっており、令和元年12月には来館者100万人を迎え、記念セレモニーを行う等人気施設となっています。一方、「あいターミナル管理事業」を「期待以下」と評価し、「薬師山スキー場管理運営事業」「北秋田市スキー大会等補助事業」の2事業については、雪不足による大会中止であり、「評価対象外」としました。

「費用対効果」については、「公民館講座開設事業」「北秋田市民ふれあいプラザ管理事業」「縄文まつり開催事業」「交流センター改修事業」「浜辺の歌音楽館運営事業」「北秋田市民プール管理運営事業」「北秋田市スポーツ文化合宿等誘致促進事業」の7事業において「予想以上」の成果が得られたと評価しました。北秋田市民プールは、利用者が年々増加傾向にあり、それを維持し更に利用者増につなげるための自主事業として、高齢者向けウォーキング教室の開催等が好評であり、運営の取り組みが支持されています。一方、「陶芸ハウス管理事業」「あいターミナル管理事業」「浜辺の歌音楽祭開催事業」「民俗芸能大会事業」の4事業を「課題有り」と評価し、「薬師山スキー場管理運営事業」「北秋田市スキー大会等補助事業」については「有効性」と同様の理由で「評価対象外」としました。

「必要性」については、17事業を「高い」、46事業を「不可欠」と評価し、「低い」と評価した事業はありませんでした。

「方向性」については、「小・中学校パソコン導入事業」「北秋田市民ふれあいプラザ管理事業」「伊勢堂岱遺跡世界遺産登録推進事業」の3事業を「拡大すべき」と評価しました。「小・中学校パソコン導入事業」は、文部科学省のGIGAスクール構想実現に向け、情報社会に対応した校内情報ネットワーク構築のため、一人1台端末の導入を進めるとともに、ICT環境整備の充実を図ります。「伊勢堂岱遺跡世界遺産登録推進事業」は、伊勢堂岱ワーキンググループ、ジュニアボランティアガイドによる遺跡のPR活動等の情報発信により、最短で2021年の世界遺産登録を目指し、更なる強化を図ります。一方、「日本遺産事業」を「縮小」、また、「公民館管理事業」を「統合」、55事業を「継続」と評価しました。令和元年度で終了した事業は、「鷹巣中学校校舎大規模改造事業」「鷹巣南部学校給食センター給食配送車更新」「小・中学校教職員出退勤管理システム導入事業」の3事業でした。

点検評価を終え、学識経験者からは次のような御意見をいただきました。

「とてもよく課題を認識しながら運営されてると思います。評価に若干謙虚なところが見受けられますが、成果が充実しているので、それらをきちんと裏付けるデータを工夫して、主観的な指標以外のバックデータがあれば、より一層新しい展開に結びついていくと思います。」

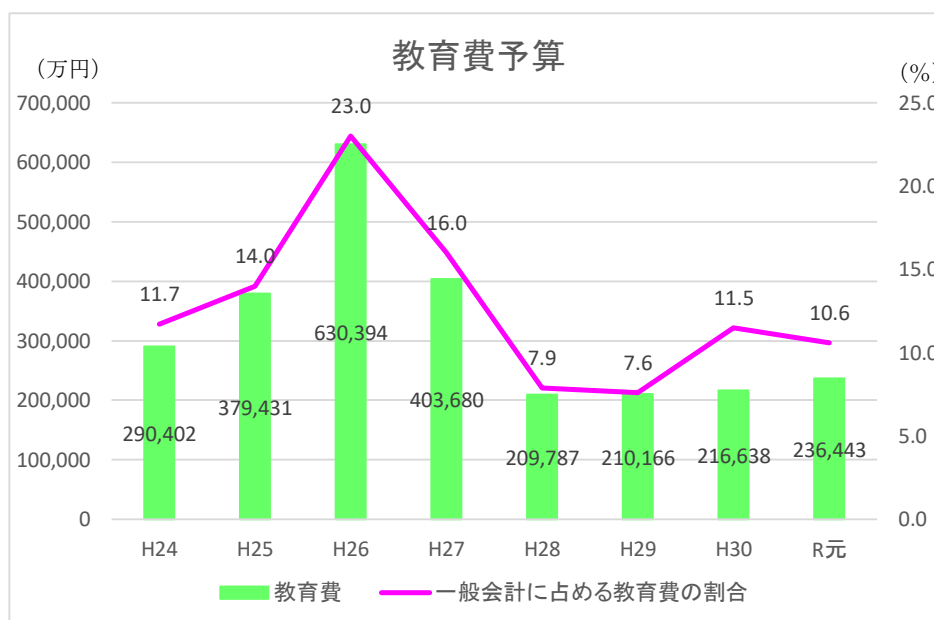
「予算に限りがある中で、幅広い年代に目が届く事業に、効率よく積極的に取り組まれていると思います。今後さらに少子高齢化が進むからこそ未来に希望の持てる施策や中長期的な展望を持って取り組んでもらいたい。また、内容や質が分かるようにデータをもう少し工夫すると良いと思います。コロナ禍で事業の変更やイベントが取りやめになったりして大変苦労されてると思います。来年の点検評価時には数字だけでなく、誰が見ても分かるように状況や判断理由の記録をおさえておくようにすれば良いと思います。」

いただいた御意見を踏まえ、より効果的な教育行政の推進に努めて参ります。

令和2年10月

北秋田市教育委員会

【参考】



6 主要事務事業点検・評価票

【点検・評価対象事務事業一覧】

施策名	施策の方向性
学校教育の充実	①学校の適正配置 ②基礎学力の定着と学力向上 ③体験を重視したキャリア教育・ふるさと教育の充実 ④教育環境の充実

No	事務事業名	【総務課】
1	あきたリフレッシュ学園・教育留学事業	
2	小・中学校施設維持補修事業	
3	鷹巣中央南小学校校舎大規模改造事業	
4	鷹巣中学校校舎大規模改造事業	
5	鷹巣南部学校給食センター給食配送車更新	

No	事務事業名	【学校教育課】
6	外国青年招致事業	
7	教育センター事業	
8	総合学習補助事業	
9	小・中学校パソコン導入事業	
10	遠距離通学費補助事業	
11	スクールバス運行事業	
12	要保護児童生徒援助費補助事業及び特別支援教育就学奨励費補助事業	
13	準要保護児童生徒援助費補助事業	
14	学校生活サポート事業	
15	学校保健事業	
16	小・中学校備品整備事業	
17	児童生徒大会派遣費補助事業	
18	不登校児童生徒対策事業	
19	小・中学校校務支援システム導入事業	
20	学校統廃合事業	
21	小・中学校教職員出退勤管理システム導入事業	

施策名	施策の方向性
生涯学習の充実 【重点プロジェクト】	①地域づくりにつながる社会教育 ②北秋田市民ふれあいプラザを拠点とした生涯学習の充実と地域の活性化 ③学びの場・発表の場の提供 ④児童・生徒の学校外の学習・交流促進

No	事務事業名	【生涯学習課】
22	新成人事業	
23	日本語教室開催事業	
24	高齢者教育事業	
25	青少年育成事業	
26	公民館管理事業	
27	公民館講座開設事業	
28	花いっぱい運動推進事業	
29	農林業振興センター（鷹巣地区公民館）管理事業	
30	農村環境改善センター（合川公民館）管理事業	
31	コミュニティセンター（森吉公民館）管理事業	
32	ふるさと文化センター（阿仁公民館）管理事業	
33	陶芸ハウス管理事業	
34	あいターミナル管理事業	
35	北秋田市民ふれあいプラザ管理事業	
36	放課後児童健全育成事業	
37	放課後子ども教室推進事業	
38	地域学校協働本部事業	
39	家庭教育支援推進事業	

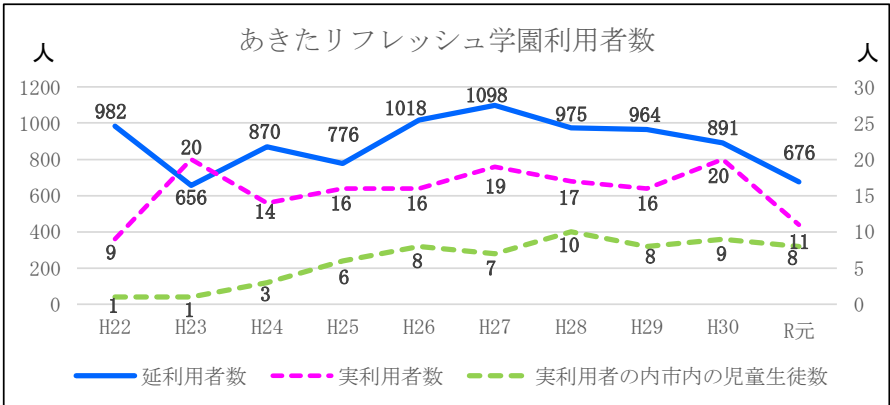
施策名	施策の方向性
芸術・文化の継承と振興	①伊勢堂岱遺跡の世界遺産登録推進 ②芸術、文化活動の支援 ③有形文化財の保存と活用 ④無形文化財の保護と継承

No	事務事業名	【生涯学習課】
40	伊勢堂岱遺跡世界遺産登録推進事業	
41	縄文まつり開催事業	
42	交流センター管理事業	
43	交流センター改修事業	
44	図書館事業	
45	文化会館管理事業	
46	文化会館改修事業	
47	みちのく子供風土記館管理事業	
48	浜辺の歌音楽館運営事業	
49	浜辺の歌音楽祭開催事業	
50	文化祭開催事業	
51	伊勢堂岱遺跡縄文館管理事業	
52	日本遺産事業	
53	文化財保護事業	
54	民俗芸能大会事業	

施策名	施策の方向性
スポーツの振興	①スポーツ環境の充実 ②生涯スポーツの推進・スポーツを通じた地域活性化 ③競技スポーツの向上

No	事務事業名	【スポーツ振興課】
55	北秋田市民プール管理運営事業	
56	薬師山スキー場管理運営事業	
57	100キロチャレンジマラソン大会補助事業	
58	北秋田市スキー大会等補助事業	
59	北秋田市スポーツ大会出場費補助事業	
60	北秋田市スポーツ大会開催補助事業	
61	北秋田市スポーツ文化合宿等誘致促進事業	
62	体育館維持補修事業	
63	野球場維持補修事業	

【個別点検・評価票】 ※比較のため、括弧書きで前年度の評価結果を記載しています。

1 あきたリフレッシュ学園・教育留学事業				主管課	総務課																																												
決 算 額	11,017 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)																																												
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (4) 継続																																												
活 動 内 容	①あきたリフレッシュ学園事業 人間関係やストレスを抱え、心の問題に悩む県内の小中学生を対象に、学習指導のほか、自然体験やもの作り体験等、様々な活動を通して心と体のリフレッシュを図る機会を提供することにより早期の学校復帰を図る。 ②教育留学事業（秋田県の委託事業） 県外の児童生徒を対象とした教育留学事業は、市内の小・中学校において短期・長期で児童生徒を受け入れることや、当市の教育や自然を体験することで、当市に興味・関心をもってもらい、将来的な移住定住に結びつける。																																																
評 価 指 標	①あきたリフレッシュ学園事業 所属校への復帰者数（数値目標：学校復帰率70%） ②教育留学事業 教育留学を推進することで関係人口の増加を図り、移住・定住の促進につなげる。																																																
成 果 と 課 題	①あきたリフレッシュ学園事業 令和元年度は192日間開園し、在籍17名中11名（延べ676名）の利用があった。中学2年生以下6名中3名が年度途中から所属校へ復帰でき、中学3年生5名全員が高校へ進学した。学校復帰率は前年度の75%から73%とやや減となったが、季節に応じた体験活動を工夫することにより、入園当初よりも健康的な生活を取り戻す子もみられた。一方、在籍しているものの、なかなか登園につながらない子もおり、この子たちとの関わり方が今後の課題である。 あきたリフレッシュ学園利用者数 <table><thead><tr><th>年度</th><th>延利用者数</th><th>実利用者数</th><th>実利用者の内市内の児童生徒数</th></tr></thead><tbody><tr><td>H22</td><td>982</td><td>9</td><td>1</td></tr><tr><td>H23</td><td>656</td><td>20</td><td>1</td></tr><tr><td>H24</td><td>870</td><td>14</td><td>3</td></tr><tr><td>H25</td><td>776</td><td>16</td><td>6</td></tr><tr><td>H26</td><td>1018</td><td>16</td><td>8</td></tr><tr><td>H27</td><td>1098</td><td>19</td><td>7</td></tr><tr><td>H28</td><td>975</td><td>17</td><td>10</td></tr><tr><td>H29</td><td>964</td><td>16</td><td>8</td></tr><tr><td>H30</td><td>891</td><td>20</td><td>9</td></tr><tr><td>R元</td><td>676</td><td>11</td><td>8</td></tr></tbody></table> ②教育留学事業 長期留学参加者 H28 10名（延べ319名） H29 13名（延べ630名） H30 11名（延べ1065名） R1 11名（延べ818名） 短期留学参加者（夏期）H28 25名 H29 32名 H30 33名 R1 19名 （冬期）H28 16名 H29 33名 H30 28名 R1 24名					年度	延利用者数	実利用者数	実利用者の内市内の児童生徒数	H22	982	9	1	H23	656	20	1	H24	870	14	3	H25	776	16	6	H26	1018	16	8	H27	1098	19	7	H28	975	17	10	H29	964	16	8	H30	891	20	9	R元	676	11	8
年度	延利用者数	実利用者数	実利用者の内市内の児童生徒数																																														
H22	982	9	1																																														
H23	656	20	1																																														
H24	870	14	3																																														
H25	776	16	6																																														
H26	1018	16	8																																														
H27	1098	19	7																																														
H28	975	17	10																																														
H29	964	16	8																																														
H30	891	20	9																																														
R元	676	11	8																																														
今後の方向性	①あきたリフレッシュ学園 今後も学校復帰率をひとつの指標としながら、家庭や所属校、関係機関との連携を図り、不登校の子どもの教育機会の支援をして行く。 ②教育留学 秋田の探求型授業や体験活動等を通じて、北秋田市の魅力を発信して行く。																																																
学識経験者の意見	教育留学事業はニーズが高く、将来的に移住定住に繋がる可能性もあると思われる。工夫して継続していただきたい。																																																

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果……1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

2 小・中学校施設維持補修事業				主管課	総務課
決 算 額	(小)27,379 千円 (中)10,756 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	校舎、体育館等学校施設の機能を維持するため、経年劣化した建物や故障した設備の維持補修工事を行い学校生活の環境整備を図った。				
評 価 指 標	当初予定工事の進捗率、緊急性を要する事案への対応。				
成果と課題	当初予定していた工事については、おおむね想定したスケジュールにて実施した。 工事数は、小学校施設18件、中学校施設8件の維持補修・改修工事を行い、緊急を要すると判断したものは都度対応し、学校環境の整備を図った。 建物や設備の維持補修については、安全性や緊急性を考慮し優先順位を決めて進めているが、各学校施設とも老朽化が進み、年々改修箇所が増加傾向にある。 予防保全的な視点に立って、効率良く改修・補修を進めていく。 【主な工事（小学校）】 ○綴子小学校トイレ改修工事 教室棟洋式化6箇所(内移設4)、管理棟4箇所(内移設2) 工事費12,420,000円 ○鷹巣東小学校トイレ改修工事 職員来賓用洋式化3箇所 教室棟等洋式化4箇所 工事費 5,860,800円 ○鷹巣小学校教室ウレタン塗装工事 低学年6室 408㎡ 工事費 2,268,000円 ○鷹巣東小学校校舎屋根防水シート張替え工事 147.2㎡ 工事費 2,246,400円 【主な工事（中学校）】 ○阿仁中学校給食搬入口改修工事 鉄骨造 19.98㎡ 工事費 4,849,900円 ○合川中学校体育館屋根防水シート張替工事 213.3㎡ 工事費 1,684,800円 ○合川中学校柔剣道場屋外階段塗装工事 柱78.5㎡、手摺233.6m 工事費 2,667,600円				
今後の方向性	必要不可欠な事業であり、施設も老朽化が進んでいるため、今後も継続して事業を実施していく。				
学識経験者の意見	環境や情勢の変化の中で、必要不可欠な設備については、優先順位や年次計画を立てて今後も施設整備に取り組んでいただきたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

3 鷹巣中央南小学校校舎大規模改造事業				主管課	総務課
決 算 額	19,010 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 - 期待どおり	2 - 予定どおり	3 - 不可欠	4 - 継続
活 動 内 容	鷹巣中央小学校と鷹巣南小学校の統合を令和3年4月に予定しており、鷹巣中学校と鷹巣南中学校の統合に伴い空いた校舎を活用し新校舎とするため、校舎整備と、機能を維持を目的に、経年劣化した建物や設備の大規模な改修工事のための調査を行い、学校統合に向けた設計委託を実施した。				
評 価 指 標	当初予定工事の進捗率、緊急性を要する事案への対応。				
成果と課題	当初予定していた調査と設計を行い、令和2年度工事に向け設計委託を予定通り実施した。 委託数は3件を発注し、アスベスト調査を行ない、その結果を受けて、校舎の大規模改造設計のほか、プール改築工事設計を実施し、学校統合に向けた工事発注のための整備を実施した。 今後の課題として、外構施設の老朽化に伴い、維持修繕等の検討を実施し、必要に応じ対策を講じる必要がある。 【設計委託内訳】 統合鷹巣中央南小学校（旧鷹巣南中学校） 鉄筋コンクリート造 3,494㎡ ○アスベスト調査委託 校舎・屋体建材分析 44箇所 委託費 2,883,600円 ○設計業務委託（鷹巣南中学校大規模改造工事） 設計業務委託 一式 委託費 10,230,000円 ○設計業務委託（鷹巣南中学校プール改築工事） 設計業務委託 一式 委託費 5,896,000円				
今後の方向性	必要不可欠な事業であり、継続して事業を実施し統合へ向けた準備を進めていく。 また今後において、適時適切な維持管理を実施する事により、施設寿命の延命と機能維持を行なう。				
学識経験者の意見	工事実施設計業務発注業務につき特に意見なし。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果……1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

4 鷹巣中学校校舎大規模改造事業				主管課	総務課
決 算 額	396,958 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 - 期待どおり	2 - 予定どおり	3 - 不可欠	1 - 廃(休)止・終了
活 動 内 容	鷹巣中学校と鷹巣南中学校を統合するため、校舎の学級等の整備を行ない、あわせて機能を維持するため、経年劣化した建物や設備の大規模な改修工事を行い学校統合に向けた整備を図った。				
評 価 指 標	当初予定工事の進捗率、緊急性を要する事案への対応。				
成果と課題	当初予定していた工事については、想定したスケジュールにて実施した。 工事数は6件を発注し、校舎の大規模改造のほか、通級教室の増築工事や、スクールバス車庫の新築工事等を実施し、学校統合に向けた整備を図った。 今後の課題として、体育館の老朽化に伴い、建築、改修等の検討を実施し、必要に応じ対策を講じる必要がある。 【主な工事】 ○鷹巣中学校校舎大規模改造工事 鉄筋コンクリート造 6,213㎡ 屋上防水、外部塗装、内部床改修、トイレ洋式化、エアコン設置25台 工事費346,865,200円 ○鷹巣中学校通級教室増築 鉄筋コンクリート造 48.6㎡ 増築部屋数3教室 工事費 20,643,700円 ○鷹巣中学校スクールバス車庫建築工事 鉄骨造 144㎡ バス4台分 工事費 28,725,400円				
今後の方向性	令和元年度で事業終了だが、体育館施設も老朽化が進んでいるため、施設維持の観点からも今後も適切に管理を実施していく。				
学識経験者の意見	必要不可欠な設備については、優先順位や年次計画を立てて今後も施設整備に取り組んでいただきたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
費用対効果……1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

5 鷹巣南部学校給食センター給食配送車更新				主管課	総務課
決 算 額	6,380 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 - 期待どおり	2 - 予定どおり	3 - 不可欠	1 - 廃(休)止・終了
活 動 内 容	老朽化した南部学校給食センターの配送車の更新を実施した。				
評 価 指 標	配送車の計画的な更新により、安心・安全な学校給食の運営を図る。				
成果と課題	児童・生徒に安心・安全な学校給食を提供できている。				
今後の方向性	(令和元年度事業終了)				
学識経験者の意見	給食配送車更新につき特に意見なし。				

6 外国青年招致事業				主管課	学校教育課
決 算 額	31,584 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	外国語活動・外国語指導の充実を図り、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を目指すため、外国語指導助手(ALT)として、7名(全てアメリカ出身)を招聘し、小学校10校、中学校5校に派遣した。ALTの人数や学級数、また派遣上の問題が特になければ、原則的に中学校区単位で同一のALTを担当させ、児童生徒の視点とALTの児童生徒理解の視点から、小・中連携を図った。ALTコーディネーター派遣事業を実施し、ALTの資質向上に努めた。				
評 価 指 標	①県学習状況調査平均通過率で県平均+3%(中1・中2) ②同質問紙「外国語活動(英語)の勉強が好きだ」が県平均+3%(小5~中2) ③平成30年度から実施している英検IBA3級以上取得の割合が県平均を上回る。実態に応じて継続的に指導に当たる。				
成果と課題	①中1: R1 -3.6、H30 -2.7、中2: R1 -3.1、H30 +3.8 ②小5: R1 -4.2、H30 +10.4 小6: R1 +7.4、H30 +4.9 中1: R1 -7.8、H30 -3.5 中2: R1 -10.8、H30 -4.2 ③中3: R1 (市31.0、県32.5) H30 (市49.1、県46.3) 県平均との±は目安の一つとして捉えているが、令和元年度の成績が全体的に思わしくないため、学年の実態に合わせた指導とともに、個に応じた指導の充実を図る必要がある。				
今後の方向性	コーディネーター訪問を定期的に行いALTの資質向上を図っていく。小学校は新学習指導要領全面実施となり、内容に読むこと・書くことが加わったため、学級担任がALTとチーム・ティーチングを過度な負担なく行えるよう継続して支援できるようにする。				
学識経験者の意見	コーディネーターがうまく間に入って、ALTが積極的に、授業はもとより、地域活動にも参画されて良いと思う。英語の勉強が好きだという児童が増えており、ALTとのコミュニケーションが良くとれていると思われる。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

7 教育センター事業				主管課	学校教育課
決 算 額	9,492 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (2) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	北秋田市学校教育ビジョンに掲げる「主体的に学び、新しい時代を創造する子ども」を目指す子どもの姿として、小・中学校の教職員研修を計画・実践した。組織を事業調査部、教職研修部、授業・教科部に分け、その中に各部会を設置し、一人一人に過度な負担をかけないようにしながら、教職員研修の充実を図った。				
評 価 指 標	「事前研究会」と「授業研究会」について、年度終盤に実施する教職員アンケート（4段階評価）において、十分満足と概ね満足の合計が90%を超えるようにする。県学習状況調査の児童生徒アンケートで「学校生活に満足している（学校が楽しい）」の4段階評価で「4」の児童が70%、生徒が65%を超えるようにする。 実施時期を4月から1月に変更した市学力調査の実施時期を12月に変更し、引き続き年度内に回復指導を行うサイクルを確立する。				
成果と課題	①教職員アンケート結果 ・事前研修会（小学校94%、中学校99%） ・授業研究会（小学校97%、中学校99%） ②県学習状況調査の児童生徒アンケート結果 ・小4(66.8%)、小5(56.8%)、小6(66.2%)、中1(51.2%) 中2(59.5%) 教職員の負担軽減を図るとともに研修内容等の工夫により、研修及び研究会における満足度の割合が極めて高くなった。今後は、その成果を児童生徒へ還元できるよう追跡調査を継続していく。				
今後の方向性	今年度の小学校における学習指導要領の全面实施、及び来年度の中学校での全面实施に当たって、各校での教職員の研修を支援できるよう、教育センターの各部会の研修内容の更なる充実を図る。 校務支援システムと市学力調査Web評価システムを一層効果的に活用できるようにする。				
学識経験者の意見	教職員の多忙感を解消しながらも、研修会を充実させたい。				

8 総合学習補助事業				主管課	学校教育課
決 算 額	1,071 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (5) 継続
活 動 内 容	小・中学校において特色ある総合的な学習の活動が充実できるよう各校の活動内容に応じて補助金を交付した。				
評 価 指 標	各学校で、横断的・総合的な学習、探究的な学習を通じた特色ある活動を促す。				
成果と課題	農園活動、地域との交流活動、ふるさとを知る活動、伝統文化継承活動、福祉や産業に目を向け、職業観をもって自分の将来について考えられる取組など、幅広い分野において各校が地域の特徴を活かした総合的な学習を各校が実施した。小学校5校、中学校1校で学校運営協議会が発足したことで、地域の人的・物的資源を活用した取組が一層進んでいる。				
今後の方向性	各学校の実態に応じて更なる創意工夫を促すために内容に応じた配分とする。				
学識経験者の意見	各学校が特色ある活動ができるよう継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

9 小・中学校パソコン導入事業				主管課	学校教育課
決 算 額	66,885 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 - 期待どおり	2 - 予定どおり	3 - 不可欠	5 - 拡大
活 動 内 容	学習指導要領において「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられた情報活用能力の育成を目指し、充実した授業環境を整え、情報社会に順応できる人材の育成及び校務の円滑化を図るため、全小中学校にP C、タブレット、サーバ等を導入し設定及び修理に迅速に対応できるよう保守契約を締結した。				
評 価 指 標	小・中学校で839台のパソコン及び周辺機器のリース。R1年度は米内沢小学校、前田小学校、鷹巣中学校で計214台のリースを更新する。				
成果と課題	R1の更新により、R2.1でサポートの切れるWin7は全てWin10に更新済みとなった。保守管理について、毎年多大な経費がかかるため、耐用年数や故障頻度等を考慮しながら更新期間を検討していく。				
今後の方向性	文部科学省のGIGAスクール構想の実現に向け、今後は校内情報ネットワークの構築と一人1台端末の導入を進めるとともに、I C Tを活用した学習活動の充実を図る。				
学識経験者の意見	今後の展望として、家庭学習でのタブレット活用や応援できるシステムを構築することに期待したい。				

10 遠距離通学費補助事業				主管課	学校教育課
決 算 額	721 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	小学校4km以上、中学校6km以上の遠距離通学者のうち、公共交通機関を利用することが可能な児童生徒にバス定期券を現物支給した。 ・鷹巣南小（坊山） 2名 ・鷹巣南中（坊山・四渡） 3名 ・前田小（根森田・堺田） 4名				
評 価 指 標	通学の安全と保護者の負担軽減。				
成果と課題	バス定期券を対象児童生徒全員に交付したことで、通学の安全と遠距離通学児童生徒が義務教育を受ける上での費用負担の不均衡が緩和された。 令和2年度の鷹巣中学校と鷹巣南中学校との統合により、坊山・四渡方面から鷹巣中学校までのバス路線がないことから、通学手段をスクールタクシーとした。				
今後の方向性	児童生徒の通学の安全確保と遠距離通学児童生徒が義務教育を受ける上での費用負担の均衡の観点から事業を継続していく。				
学識経験者の意見	地域公共交通機関が利用可能であるなら、継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

11 スクールバス運行事業				主管課	学校教育課
決 算 額	71,437 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (5) 継続
活 動 内 容	遠距離通学者の交通手段として、スクールバス及びスクールタクシーを運行。 直営バス：11台 委託バス：2台 スクールタクシー：5台 小学校：10校（202人：18.1%） 中学校：5校（142人：22.8%）				
評 価 指 標	通学の安全と保護者の負担軽減。				
成果と課題	遠距離通学児童生徒が義務教育を受ける上での費用負担の不均衡が緩和されたが、スクールバス回送中とスクールタクシー運行中に各1件の事故が発生した。 安全運行の徹底を図るために運転手会議を開催し、運行時間の妥当性、運行ルート の安全性を常に確認していく。鷹巣地区の中学校統合に伴い、本年度バス2台を 購入した（16,066千円）。				
今後の方向性	学校の統廃合に向けて、スクールバス等の運行計画を検討した上で、バスの必要 台数を確保していく。				
学識経験者 の 意 見	学校再編により需要は増えることから、安全運行に努められたい。				

12 要保護児童生徒援助費補助事業及び特別支援教育就学奨励費補助事業				主管課	学校教育課
決 算 額	678 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	教育の機会均等を図るため、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の 保護者や特別支援学級入級者の保護者に対し、適正な就学機会を提供する必要がある ことから援助を行った。 要保護児童生徒 小学校 5名（0.4%） 中学校 0名（0.0%） 28千円 特別支援児童生徒 小学校 14名（1.3%） 中学校 5名（0.8%） 650千円				
評 価 指 標	保護者へ制度の説明と関係機関との連携で周知を図る。				
成果と課題	入学説明会やPTAで保護者に説明し、周知を図った。特に、特別支援教育就学奨 励費については、補助費目によって領収書の提出が必要となるため、特別支援学級 入級予定の保護者あてに文書で事前にお知らせし、活用を促した。				
今後の方向性	援助を必要とする児童生徒が、安心して義務教育を受けることができるよう、事 業を継続していく。				
学識経験者 の 意 見	補助を必要とされる方への事前の周知がしっかりと図られるように取り組まれた い。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

13 準要保護児童生徒援助費補助事業				主管課	学校教育課
決 算 額	31,799 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	教育の機会均等を図るため、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、適正な就学機会を提供する必要があることから援助を行った。準要保護の認定については生活保護基準額に1.3を乗じた額とする。 準要保護児童生徒 小学校221名(19.8%) 中学校114名(18.3%) 28,228千円 新入学学用品費入学前支給 小学校 32名(19.5%) 中学校 34名(17.4%) 3,571千円				
評 価 指 標	保護者へ制度の説明と関係機関との連携で周知を図る。				
成果と課題	就学援助を希望する保護者、認定者が増加傾向にあり、今後も続くと思われる。「新入学学用品費」の入学前支給について、平成29年度入学者から実施しており、今後も本制度について入学説明会やPTAで保護者に説明をして活用を促していく。				
今後の方向性	援助を必要とする児童生徒が、安心して義務教育を受けることができるよう、事業を継続していく。				
学識経験者の意見	補助を必要とされる方への事前の周知がしっかりと図られるように取り組まれない。				

14 学校生活サポート事業				主管課	学校教育課
決 算 額	47,370 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	学習面や生活面において個別の配慮や支援の必要な児童生徒が学校生活に適應できることを目的として、小学校10校、中学校4校へ支援員を配置した。また、教職員と協力して適切な支援ができるよう、学級担任との合同研修会を実施した。 配置人数・・・小学校25名、中学校7名 対象児童生徒数・・・小学校103名、中学校21名				
評 価 指 標	一人一人の状況や学級の実態に応じた支援が行われ、対象児童生徒が学校生活に適應している。				
成果と課題	支援員を配置することにより、対象児童生徒が安心して学校生活を送ることができるほか、周囲の児童生徒が落ち着いて学習に取り組むことができること、担任の負担が軽減され学級経営や授業づくりが充実することで、学校全体の教育効果を高めている。 前年度から対象児童生徒は11名増え、支援員も1名増えたが、一人当たりの担当児童生徒数が、小学校で4.1人、中学校で3.0人となる。最も多い学校では、5.4人を担当している。また、支援員1人が複数学級を受け持っている現状から、支援員の充実を図っていく必要がある。				
今後の方向性	児童生徒の学校生活の充実と、教職員の学級経営や授業づくりの充実を図るために支援員の配置を継続する。				
学識経験者の意見	児童の個別の特性に応じた支援を要するため、支援員へのニーズは高まっているし、必要性は浸透していると思われるため、継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性・・・・・・1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果・・・・1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性・・・・・・1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性・・・・・・1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

15 学校保健事業				主管課	学校教育課
決 算 額	15,199 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	学校保健安全法に基づき、各校に学校医を委嘱し、児童生徒及び教職員の健康診断・各種検診及び健康相談を実施し、健康状態を把握することにより学校教育の円滑な実施を図った。 内科医12名、歯科医5名、眼科医1名、耳鼻科医2名、学校薬剤師12名を委嘱。 各種健康診断の実施実績 児童生徒 1,739名 受診率99.9%※在籍数1,741名 教職員 127名 受診率100% ※人間ドック除く 就学時健診 171名 受診率100%				
評 価 指 標	児童生徒及び教職員の健康診断等の円滑な実施。 教職員のストレスチェックの実施。				
成果と課題	北秋田市医療団体との連携により健康診断及び各種検査等を円滑に実施することができた。また、北秋田市医療団体と業務協議会を開催し、学校保健等に関して意見交換することができた。				
今後の方向性	学校保健事業の円滑な実施に向けて、医療団体と連携を図り継続していく。				
学識経験者の意見	継続実施により、良好な教育環境の維持に努められたい。				

16 小・中学校備品整備事業				主管課	学校教育課
決 算 額	11,831 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活 動 内 容	児童生徒の確かな学力の向上を図るために、各学校で選定した教材備品を整備した。また、学校図書についても蔵書内容の充実に努めた。 教材備品購入費：小学校 3,131千円 (10校) 中学校 4,778千円 (5校) 学校図書購入費：小学校 2,166千円 (10校) 中学校 1,755千円 (5校)				
評 価 指 標	教材備品等について、学校要望のヒアリングを実施して有効的な整備を図る。				
成果と課題	教材備品については、各学校からの要望に対して整備することができた。 学校図書は各学校とも標準蔵書数に対して100%であるが、内容の充実に努める。				
今後の方向性	教育効果を高めるために教材備品等の整備を継続する。				
学識経験者の意見	学校図書の蔵書内容の充実に努められたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

17 児童生徒大会派遣費補助事業				主管課	学校教育課
決 算 額	7,450 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	小・中学校の部活動等において優秀な成績を収め、地区代表として全県大会以上の大会に出場する児童生徒・引率者に、交通費、宿泊費及び参加料を補助。 補助率 全県大会：7割 東北大会以上：10割 R1年度補助件数 116件				
評 価 指 標	上位大会出場を目標とした活動に支援することで、児童生徒のやる気を促す。				
成果と課題	児童生徒の上位大会出場を目標にした意欲的な部活動等の取組に支援ができ、特に駅伝、スキー、ソフトテニス、相撲等では東北大会で上位入賞するなどの活躍があった。				
今後の方向性	地域代表である高い意識や児童生徒のやる気を促すとともに、保護者の負担軽減を目的としており、児童生徒の自己有用感の育成に有効であることから事業を継続していく必要がある。				
学識経験者の意見	児童生徒の頑張りは、地域の元気に繋がることから、継続実施を図られたい。				

18 不登校児童生徒対策事業				主管課	学校教育課
決 算 額	1,344 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	市教育センター内に「北秋田さわやか教室」として、不登校児童生徒をサポートする適応指導教室を設置した。教職に携わったことのある教員免許取得者（非常勤職員）1名を配置し、学校や関係機関と連携しながら、学校復帰に向けた支援や学習指導を行った。				
評 価 指 標	さわやか教室への通級がきっかけとなり、学校への登校日数が増える。生活習慣が向上する。				
成果と課題	3名が在籍し、そのうち2名が通級した。その中の1名は学校復帰を果たし高校受験にも合格し進学した。また、体験通級をしていた2名のうち1名は、学校復帰を果たすことができた。全国的にも不登校（不登校傾向）の児童生徒は増加傾向にあるが、個々の実態に合わせて丁寧な支援を行うことで、登校・登室に結び付くよう対応していく。				
今後の方向性	不登校（不登校傾向）児童生徒の居場所となり、学校復帰に向けた取組ができる重要な場として今後も継続する。また、生徒の実態によっては、学校訪問による指導など柔軟に対応し、学校復帰に向けたきめ細かな支援を行う。				
学識経験者の意見	個々の実態に応じた支援に努められたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

19 小・中学校校務支援システム導入事業				主管課	学校教育課
決 算 額	10,596 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	平成29年度に公募型プロポーザル方式によりシステムの賃貸借事業者を選定し、長期継続契約を締結。平成30年度から本格運用とした。				
評 価 指 標	システム運用研修を実施し、教員の校務負担軽減と教育の質的向上に繋げる。				
成果と課題	夏季休業中に全教職員に対してアンケート調査を行い、システム運用の効果、現行システムの改善点や教育委員会の支援の在り方等について検討する。				
今後の方向性	教員の校務負担軽減と教育の質的向上を図るため事業継続するとともに、教職員のニーズに合わせカスタマイズするなど操作性を高めるようにする。なお、令和2年度は出退勤システム導入事業を組み入れ、教職員の働き方改革と教育の質的向上を併せて推進する。				
学識経験者の意見	校務負担軽減に有効なことから、システム運用に努められたい。				

20 学校統廃合事業				主管課	学校教育課
決 算 額	3,228 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 - 期待どおり	2 - 予定どおり	3 - 不可欠	4 - 継続
活 動 内 容	小中学校適正規模・配置再編プランに基づいた、円滑な統廃合への支援を行った。				
評 価 指 標	鷹巣中学校と鷹巣南中学校の統合に伴う、鷹巣南中学校の閉校において、生徒・保護者・地域住民にとって思い出に残る閉校記念の取組がなされるよう下支えするとともに、新生鷹巣中学校のシンボルである校旗を更新する。				
成果と課題	鷹巣中学校と鷹巣南中学校について円滑な統合が図られた。鷹巣南中学校閉校式については、新型コロナウイルス感染症に対する対策をとりながら卒業生も含めた全校生徒、教職員、若干の地域代表者などの参加により開催することができた。				
今後の方向性	鷹巣中央小学校と鷹巣南小学校の統合についても、引き続き円滑に進むよう支援する。また、阿仁地区、森吉地区についても保護者や地域住民の声を大切にしながら、統合に向けた話し合いを継続していく。				
学識経験者の意見	円滑な統廃合ができるよう、支援に努められたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

21 小・中学校教職員出退勤管理システム導入事業				主管課	学校教育課
決 算 額	2,860 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 - 期待どおり	2 - 予定どおり	3 - 不可欠	1 - 廃(休)止・終了
活 動 内 容	教職員の健康管理や業務改善の効果検証を図るため、ＩＣカードの打刻による出退勤システムの導入を行った。				
評 価 指 標	運用後において、月当たりの時間外勤務時間数の全年度比５％削減				
成果と課題	出退勤時刻を客観的に把握することで、無制限無定量の勤務を量とするのではなく、限られた時間の中で最大限の効果が上げられるように教職員の意識改革が期待される。また、これまで月ごとの管理だった時間外勤務時間を短いスパンで把握することにより、管理職による勤務実態の把握を可能とする。				
今後の方向性	管理開始年度については、R2.4.1以降となる。なお、導入事業としては令和元年度をもって終了し、令和２年度以降は小・中学校校務支援システム導入事業と合わせて、教職員の働き方改革並びに教育の質の向上を推進していく。				
学識経験者の意見	アンケートにより、約85％が管理が容易になったと感じており、負担軽減が図られている。今後も教育の質向上に努められたい。				

22 新成人事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	576 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	新成人自らが運営に参加し、実行委員会を組織して、市内在住者及び市内中学校・大館国際情報学院中学校卒業者を対象とし、成人式を実施。記念式典、記念講演(講師：元関脇豪風の押尾川旭氏)、記念撮影、二十歳のメッセージ集「はじめの一步」を作成して二十歳の門出を祝福した。				
評 価 指 標	自らが運営する成人式とするため実行委員会の役割分担を明確にし、内容の充実を図るとともに全体の参加率の増加を目指す。				
成果と課題	成人式実行委員会（26人）による自主運営を図り、しおりの作成や受付など新成人自らが運営に参加して成人の節目を祝うことができた。今後は成人年齢引き下げによる成人式のあり方を決定し、より一層地元に着着を持ち続けることができる内容として参加率をあげる。 *H30 321人中 参加者234人（73%） R1 318人中 " 244人（76.7%）				
今後の方向性	継続して実施していくが、参加率の向上を図るとともに、成人年齢の引き下げへの対応を決定する。				
学識経験者の意見	指標として増加傾向にあるため、今後の方向性も見据えながら継続実施に取り組まれない。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90％以下) 2＝期待どおり(90％超) 3＝期待以上(100％超)
費用対効果……1＝課題あり(90％以下) 2＝予定どおり(90％超) 3＝予想以上(100％超)
必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

23 日本語教室開催事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	410 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活 動 内 容	市内で生活する外国の方を対象に日本語教室を開催して、日本語の習得と日本文化の理解につながるようサポートした。				
評 価 指 標	親しみやすい教室と参加しやすい環境を整えるとともに、内容の充実を図り就業へとつなげていく。				
成果と課題	日本語教室での学びが、自動車運転免許取得・日本語能力検定試験受験・2級ホームヘルパー講習受講などにつながっている。また、受講者同士が家族ぐるみで交流会や料理教室を企画するなど個人のスキルアップや北秋田市での生活を楽しむことができる支援になっている。今後は、更に就業に結びつけるための内容の充実を図りたい。 *H30 回数35回 受講生11人（延べ164人） R1 " 35回 " 14人（" 208人）				
今後の方向性	継続して開催し、日本での就業や生活が維持できるようサポートする。				
学識経験者の意見	対象者のニーズに応えられるよう、内容の充実を図られたい。				

24 高齢者教育事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	766 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活 動 内 容	市内4地区（鷹巣・合川・森吉・阿仁）の高齢者大学において、高齢者の学びの機会を充実させ、生きがいがづくりや仲間づくりのために講座等を開催した。 ・入学・開講式、全体講座、移動研修（卒業・閉講式はコロナ感染症対策で中止） ・クラブ活動や学園祭（鷹巣地区のみ）などの活動が行われ学習意欲を高めた。				
評 価 指 標	高齢者の生きがいがづくりや仲間づくりに向けた講座の開催と地域課題の解決・探求に向けた、グループワークの手法を取り入れた講座等を開催する。				
成果と課題	全体講座では地域の身近な課題を多くとり上げ、高齢世代が地域の中でどのような役割を持つことができるかを考えることで意識に変化がみられた。 高齢者大学での活動をとおして、多くの学生が学び合い、生涯現役という気概が醸成され、新たな生きがいがづくりにつながっている。 今後は学んだ成果を地域に還元できるよう、講座運営やクラブ活動において、受講生の主体性をより引き出す仕組みづくりが求められる。				
今後の方向性	引き続き、高齢者の生きがいがづくりはもちろん、受講生個々の主体性を育むための学びの機会を提供する。				
学識経験者の意見	参加者へのアンケートを検討する中で、満足度を数値化するのは良いと思う。当然個人差はあると思うので、アンケート内容についても検討されたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

25 青少年育成事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	566 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	青少年育成北秋田市民会議・少年保護育成委員会は、非行防止活動や青少年の見守り活動を実施した。 主に市内小中学校でのあいさつ運動（4月～11月：計12回）や子どもたちの伝承芸能合同発表会（11月）などの活動を実施した。 青少年問題協議会は、啓蒙意識を高めるため、委員の活動報告や情報交換、研修会を開催した。「子ども食堂の活動と役割について」（6月）				
評 価 指 標	育成団体等による情報交換や研修会等を開催する。				
成果と課題	地域課題に合わせた研修会を開催したほか、情報交換をすることにより、青少年を取り巻く環境について、関係団体や行政機関との問題意識の共有を図ることができた。				
今後の方向性	地域の大人が青少年を育成するための課題や情報を共有する場を提供する。				
学識経験者の意見	育成団体の活動が充実するよう、支援に努められたい。				

26 公民館管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	24,392 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	3 (3) 統合
活 動 内 容	坊沢公民館、栄公民館、合川駅前公民館、前田公民館の維持管理に努め、施設利用者の利便性向上を図った。				
評 価 指 標	・地域の拠点として住民が活用しやすいように維持管理を行い利用者を増やす。				
成果と課題	・栄公民館が4月にオープンしたが、建替え休館前の利用人数には及んでいないため、新築施設の強みを活かした利用方法を検討していく。 ・全ての公民館において、地域の拠点としての利用に留まらず、多目的な利活用の具体について検討していく。 ・その他公民館の利用者数はほぼ横ばいであった。 ・合川駅前公民館は老朽化が著しく3月末で閉館した。				
今後の方向性	・合川駅前公民館を解体する。 その他の公民館は、適切に維持管理し利用者の利便性向上に努める。				
学識経験者の意見	公民館は地域の拠点施設であることから、維持管理に努められたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

27 公民館講座開設事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	3,401 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	3 (3) 予想以上	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活 動 内 容	趣味・教養・課題解決のための講座など内容の充実に努めた。また、学んだことを地域活動に生かし、地域づくりへの人材育成を図った。				
評 価 指 標	住民の要望に応えるような講座と学ばせたい講座を開催し、参加者を増やす。				
成果と課題	各公民館での定期・短期・公開講座等の受講者数は、延べ6,262人と前年の4,879人より1,383人増えており、生涯学習フェスタ等で成果を発表することを通して、生涯学習に対する意識の向上につながった。 受講者数だけでなく、社会的なニーズを把握し、学びたい講座・学ばせたい講座をバランスよく設定する必要がある。				
今後の方向性	住民の要望に応えるような講座と学ばせたい講座をバランスよく開催する。				
学識経験者の意見	定期講座から自主講座に移行した人を指標として、重要視すべき事例であると評価したい。				

28 花いっぱい運動推進事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	360 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	「めざせ！花と笑顔いっぱいの町北秋田市」をスローガンに、花いっぱい運動推進協議会が推進する「北秋田市花だんコンクール」の開催。花の苗の育成と頒布、市の花アジサイの植栽普及、花だんづくり研修会、四季美湖植樹活動への協力等、地域ぐるみで環境美化運動を推進した。前田小学校と地域団体が協働し、市の花アジサイ50本の植樹活動を行うなど、花づくりをとおして環境の整備や人の心に潤いを与える花育活動を継続した。				
評 価 指 標	コンクールへの参加募集の周知方法を改善し、花だんコンクールの参加団体・参加者を増やす。				
成果と課題	小学生と地元市民の協働による植栽ボランティア活動や、市花だんコンクールの開催等、花育活動をとおして美しいまちづくりへの啓蒙活動を推進できた。高鷹大学生と市民合同の花だんづくり視察研修では、美しいまちづくりへの感心が高まった。学校の花だん整備に地域の高齢者が支援するなど地域ぐるみの活動が増えているので、花だんコンクールへの参加を促すなど広報活動も必要となる。 ＊ 市花だんコンクール応募数 12団体・3個人（前年：14団体・4個人）				
今後の方向性	花だんコンクールや地域と小・中学校が連携した植栽活動をとおして、花を育てることで心が潤い地域が元気になることを広められるような、交流型の取組みを図る。				
学識経験者の意見	地域ぐるみの活動に繋がっていることを評価したい。				

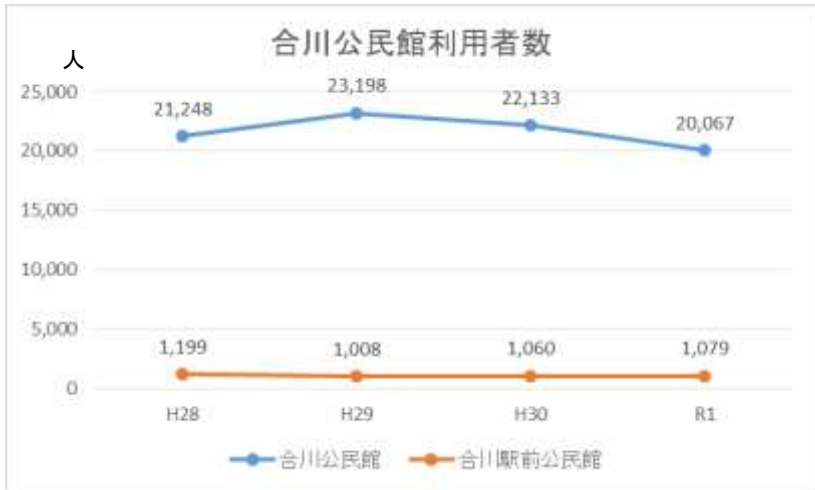
【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

29 農林業振興センター（鷹巣地区公民館）管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	22,809 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	七座、綴子、沢口、七日市公民館の維持管理に努め、施設利用者の利便性向上を図った。				
評 価 指 標	大規模修繕等を含めた年次計画の作成				
成果と課題	地域の拠点として利用しやすく、多くの市民に親しまれる公民館を目指し、適切な管理が行われた。令和元年度より、公民館を拠点に地域包括支援センターが地域の高齢者を対象に「介護予防教室」が毎月開催されている。「歩いて通える場づくり」に活用。  * 栄公民館は、H29.9～H31.3まで建て替え工事のため休館				
今後の方向性	老朽化が進んでいるが、長寿命化のため適正な管理に務める。				
学識経験者の意見	単に利用者数だけでなく、目的別や年齢別などのデータ採取により、今後の施設の有効な活用の仕方を見いだすことが期待できる。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

30 農村環境改善センター（合川公民館）管理事業				主管課	生涯学習課															
決 算 額	9,338 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)															
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続															
活 動 内 容	合川公民館を市民が講座等で利用できるよう施設の維持管理及び図書室の管理を行なったほか、軽微な修繕、合川公民館解体の設計を行なった。また、合川公民館の新築に係る検討委員会を2回実施した。																			
評 価 指 標	適切な維持管理により、利用者を増やす。合川公民館の建て替えに向け、解体の設計を行なう。合川公民館の建て替えに係る検討委員会を実施する。																			
成果と課題	適切な維持管理を行ったことで、講座やサークル活動、地域活動等で市民が安心して利用できた。利用者については、合川地区2公民館で21,146人、内合川公民館は20,067人で対前年比2,066人の減となった。合川公民館の建て替えに向けて、解体の設計を行なった。建て替えに係る検討委員会は2回実施した。検討委員会で挙げられた意見を実際の建て替え事業にどう落とし込んでいくか検討が必要。 合川公民館利用者数 <table><thead><tr><th>年</th><th>合川公民館</th><th>合川駅前公民館</th></tr></thead><tbody><tr><td>H28</td><td>21,248</td><td>1,199</td></tr><tr><td>H29</td><td>23,198</td><td>1,008</td></tr><tr><td>H30</td><td>22,133</td><td>1,060</td></tr><tr><td>R1</td><td>20,067</td><td>1,079</td></tr></tbody></table>					年	合川公民館	合川駅前公民館	H28	21,248	1,199	H29	23,198	1,008	H30	22,133	1,060	R1	20,067	1,079
年	合川公民館	合川駅前公民館																		
H28	21,248	1,199																		
H29	23,198	1,008																		
H30	22,133	1,060																		
R1	20,067	1,079																		
今後の方向性	解体・建替えまで適正な管理に努め、利用者に不安を掛けないう、継続して維持管理していく。また、解体・建替えの内容を精査していく。																			
学識経験者の意見	単に利用者数だけでなく、目的別や年齢別などのデータ採取により、今後の施設の有効な活用の仕方を見いだすことが期待できる。																			

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果……1＝課題あり(90%以下)

必要性……………1＝低い

方向性……………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続

5＝拡大

31 コミュニティセンター（森吉公民館）管理事業				主管課	生涯学習課														
決 算 額	10,103 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)														
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続														
活 動 内 容	森吉公民館施設整備の充実を図り、利用者の利便性向上に努めた。																		
評 価 指 標	適切な維持管理により、利用者の安心・安全に努める。																		
成果と課題	施設利用者の安全確保と施設管理として、ベランダ補修工事を行い、講座やサークル活動、地域活動等で、市民が安心して利用することができた。利用者については、森吉地区2公民館で17,279人、内森吉公民館は12,793人で対前年比1,477人の減となった。 ※新型コロナウイルス感染症による活動自粛や貸し館の制限等により、R2年3月の利用者数は312人（対前年比26.42%、869人減）となった。2月までの集計では月平均利用者数1,134人（対前年比95.37%、55人減）であった。																		
	森吉公民館利用者数  <table><thead><tr><th>年度</th><th>森吉公民館</th><th>前田公民館</th></tr></thead><tbody><tr><td>H28</td><td>16,934</td><td>4,094</td></tr><tr><td>H29</td><td>15,376</td><td>3,866</td></tr><tr><td>H30</td><td>14,270</td><td>3,756</td></tr><tr><td>R1</td><td>12,793</td><td>4,486</td></tr></tbody></table>					年度	森吉公民館	前田公民館	H28	16,934	4,094	H29	15,376	3,866	H30	14,270	3,756	R1	12,793
年度	森吉公民館	前田公民館																	
H28	16,934	4,094																	
H29	15,376	3,866																	
H30	14,270	3,756																	
R1	12,793	4,486																	
今後の方向性	今後も適切な維持管理を行い、市民が安心して利用できるよう環境を整えていく。																		
学識経験者の意見	単に利用者数だけでなく、目的別や年齢別などのデータ採取により、今後の施設の有効な活用の仕方を見いだすことが期待できる。																		

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果……1＝課題あり(90%以下)

必要性……………1＝低い

方向性……………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続

5＝拡大

32 ふるさと文化センター（阿仁公民館）管理事業				主管課	生涯学習課															
決 算 額	11,602 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)															
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続															
活 動 内 容	公民館施設の維持管理に努め、各種講座やサークル活動、地域活動等、地域住民利用者の利便性向上に努めた。																			
評 価 指 標	適切な維持管理を行い、利用者の安心・安全に努める。																			
成果と課題	適切な維持管理を行うことにより、市民が安心安全に利用できた。利用者については、阿仁地区2公民館で11,819人、内阿仁公民館は9,194人で620人の減となった。今後はなお一層地域の拠点として、高齢者の通いの場としての活用など、広く地域住民に利用され親しまれる公民館を目指す。 阿仁公民館利用者数 <table><thead><tr><th>年度</th><th>阿仁公民館</th><th>大阿仁公民館</th></tr></thead><tbody><tr><td>H28</td><td>9,831</td><td>3,304</td></tr><tr><td>H29</td><td>9,220</td><td>2,765</td></tr><tr><td>H30</td><td>9,814</td><td>2,653</td></tr><tr><td>R1</td><td>9,194</td><td>2,625</td></tr></tbody></table>					年度	阿仁公民館	大阿仁公民館	H28	9,831	3,304	H29	9,220	2,765	H30	9,814	2,653	R1	9,194	2,625
年度	阿仁公民館	大阿仁公民館																		
H28	9,831	3,304																		
H29	9,220	2,765																		
H30	9,814	2,653																		
R1	9,194	2,625																		
今後の方向性	継続して、施設内外の適切な維持管理に努める。																			
学識経験者の意見	単に利用者数だけでなく、目的別や年齢別などのデータ採取により、今後の施設の有効な活用の仕方を見いだすことが期待できる。																			

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果……1＝課題あり(90%以下)

必要性……………1＝低い

方向性……………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続

5＝拡大

33 陶芸ハウス管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	268 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (1) 期待どおり	1 (1) 課題あり	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活 動 内 容	陶芸ハウス利用の充実を図るための維持管理と利用者増に向けた働きかけをした。				
評 価 指 標	指導者の確保と教育関係機関・関係団体に広く活用を呼びかけることで利用者を増やす。				
成果と課題	あいかわ保育園児による陶芸体験は、創作の興味を育むことができた。また、初心者向け陶芸教室（104人）等に取り組んだことにより、利用者数は年間274人で前年207人より67人の増となっている。今後も教育関係機関・その他の関係団体と連携を図り、利用者を増やすことや新たな陶芸指導者の掘り起こしと育成が引き続き課題である。				
今後の方向性	教育関係機関・その他の関係団体や個人など、市全体を対象に広く活用を呼びかけて、利用の促進と継続した維持管理に努める。				
学識経験者の意見	単年度で考慮するなら、課題はあるにしても良い成果であったと思う。今後引き続き、歴史ある焼き物の文化活動の拡大に努められたい。				

34 あいターミナル管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	1,204 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		1 (1) 期待以下	1 (1) 課題あり	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活 動 内 容	あいターミナルを市民が安心して利用できるよう施設の維持管理を行った。				
評 価 指 標	施設の利用者とP C講座への参加者を増やす。				
成果と課題	初心者向けP C講座、年賀状作成講座を開設し、利用者が45人で前年38人より7人増加した。また、貸館機能を活かし民間団体のイベントが2回開催され、90人の利用があった。上杉自治会の拠点としての機能を併せもつことから、今後の利活用方法や運営管理について検討が必要である。				
今後の方向性	維持管理及び環境整備に努め、市民向けP C講座を開催する。秋田内陸線とのマッチングも含め、施設の利活用を検討していく。				
学識経験者の意見	今後の施設の利活用について、施設の周知にも力を入れるべき。秋田内陸線駅からの立地の良さを活かすよう検討されたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

35 北秋田市民ふれあいプラザ管理事業				主管課	生涯学習課															
決 算 額	39,568 千円	有効性 (H30) 3 (3) 期待以上	費用対効果 (H30) 3 (3) 予想以上	必要性 (H30) 3 (3) 不可欠	方向性 (H30) 5 (5) 拡大															
活 動 内 容	中心市街地の拠点として、「憩い」「交流」「にぎわい」をコンセプトに、市民向け講座等を開催したほか、イベント利用者・自由来館者が快適に過ごせるよう施設の維持管理を行った。年間の来館者数は286,859人で、12月にはオープンから来館者100万人を迎え、記念セレモニーを行った。 北秋田市民ふれあいプラザの運営審議及びふれあいプラザを中心としたにぎわいづくりを図るため「にぎわいづくり委員会」を設置し、施設管理の意見を広く求めた。																			
評 価 指 標	・「憩い」「交流」「にぎわい」をコンセプトに、市民の声を取り入れながら多くの方々に愛され広く利用されるよう、随時改良を重ねながら維持管理に努める。 ・使用のしおり、使用のルールを策定し明文化する。																			
成果と課題	・利用者のニーズに合わせた適切な管理運営を行い、来館者の増加に繋がった。 ・年間利用者数（貸館）60,937人と前年を下回ったものの、自由来館を含む年間来館者数は286,859人となり、平成28年のオープンから100万人超え、令和元年12月2日にセレモニーを行った。自由来館者は、3月末には1,088,580人となった。 ・チャレンジブースに新たな起業者が入り、事業をスタートさせた。 ・予約申込みが重複する人気施設となっていることから、予約方法や使用のルール等の整備が必要となっている。 市民ふれあいプラザ利用者数 <table><thead><tr><th>年度</th><th>来館者</th><th>内、貸館利用者</th></tr></thead><tbody><tr><td>H28</td><td>236,536</td><td>53,689</td></tr><tr><td>H29</td><td>269,704</td><td>66,114</td></tr><tr><td>H30</td><td>295,481</td><td>67,859</td></tr><tr><td>R1</td><td>286,859</td><td>60,937</td></tr></tbody></table>					年度	来館者	内、貸館利用者	H28	236,536	53,689	H29	269,704	66,114	H30	295,481	67,859	R1	286,859	60,937
年度	来館者	内、貸館利用者																		
H28	236,536	53,689																		
H29	269,704	66,114																		
H30	295,481	67,859																		
R1	286,859	60,937																		
今後の方向性	引き続き中心市街地の活性化を図る拠点施設として、市民に親しまれる管理運営に心がける。また、災害避難所としての役割も担っていく。																			
学識経験者の意見	今後も中心市街地の拠点として、利用拡大に努められたい。																			

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
費用対効果……1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

36 放課後児童健全育成事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	98,884 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	市内10箇所、15児童クラブ実施（うち7クラブは社会福祉協議会に運営委託） 延べ登録児童数は608人。 保護者が仕事等により留守になる家庭の児童について、放課後等に必要な保育を行い、健全な育成を図るため放課後児童クラブを開設した。				
評 価 指 標	・放課後子ども教室との連携により、地域ぐるみで児童の安全や健全育成を推進し、入所困難な児童にも対応していく。 ・学校統合にあわせて、児童クラブの建設計画どおり進める。				
成果と課題	放課後児童クラブにおいて、子ども達が安心安全に過ごせるよう、指導員の不足人員の確保を行った。また、障がいを持つ児童の受入れ希望があり、対応について関係者で協議のうえ適正な受入れができた。今後も継続して事業を行うため、人材の育成と確保が必要である。				
今後の方向性	学校の統廃合に合わせて、必要な施設の改修・整備計画を策定し、持続的な事業の継続を目指す。				
学識経験者の意見	必要不可欠な事業であることから、安全な運営に努められたい。				

37 放課後子ども教室推進事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	2,831 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	放課後子ども教室推進事業7教室実施 いきいきタイム（鷹巣、綴子、沢口、七日市、合川、阿仁合、大阿仁）延べ参加人数 3,976名 放課後等に、地域住民の参画を得て、ふるさと学習や体験活動等の機会を提供した。また、放課後児童クラブとの一体型運営を5箇所（鷹巣・沢口・合川・阿仁合・大阿仁）で実施し、安心安全な居場所づくりを推進した。人材不足から、教室の無い地区が出てきているため、学校、地域協働活動推進員等へ情報提供を依頼している。				
評 価 指 標	放課後児童クラブとの連携で児童の学習活動や自然体験活動の実施と地域学習を指導できる人材を確保する。				
成果と課題	地域人材を活用した体験活動の推進を図り、子ども達がのびのびと過ごしながら地域の良さを知る活動や異学年交流を推進することができた。しかし、子どもの体験学習を支援する支援員が、多忙化や高齢化、家庭の事情等から辞退するケースがあり、そのため実施教室が減っている。子ども達の放課後の体験活動の充実を図るためにも、人材の確保が喫緊の課題となっている。				
今後の方向性	子ども達に地域の自然や文化を教えることで、地元の魅力を伝えていくような取り組みとするため、人材を確保して活動回数を維持する。				
学識経験者の意見	地域差による実態は否めないが、例えばオンラインでのプログラムの活用等は可能か。環境整備や効率性を考慮する必要があると思う。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

38 地域学校協働本部事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	499 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		3 (2) 期待以上	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	市内の全ての学校と地域が連携して地域学校協働活動を実施した。地域の人材を活用した学習活動、環境整備、学習支援、クラブ活動の支援、体験活動や地域探検、登下校時の見守りなど様々な分野で児童・生徒を育む活動を行った。また、田んぼアート（田植え）や第2の公民館とした学校の利活用、観光ボランティアガイド等、地域側からの要望に応じる活動も増え、より一層連携を深めた。				
評 価 指 標	・課題や情報を共有する機会を提供する。 ・学校と地域との協働活動の成果をまとめる。				
成果と課題	地域と学校が共に人材育成に関わり、子ども達の学習や体験活動を充実させることができた。特に、「学校運営協議会制度」を6校（鷹巣東小、綴子小、合川小、阿仁合小、大阿仁小、阿仁中）が導入し、地域学校協働活動推進員を11名委嘱した。2回開催した連絡協議会では、「対話による熟議」や「校長先生による事例発表」を行い、地域ぐるみで人材を育成する仕組みづくりと地域活性化への理解を深めた。合川小学校の地域学校協働活動が文部科学大臣表彰を受賞するなど大きな成果があった。次年度は、市内全小・中学校が「学校運営協議会制度」を導入する。将来を担う人材を育成するため、地域学校協働活動推進員が中心となり、地域と学校がより良い関係を保ちながら、協働活動のコーディネートを進めて行く。				
今後の方向性	次年度、全小・中学校が「学校運営協議会制度の導入」をするため、各校との連絡調整や地域学校協働活動推進員の情報交換会等を実施し、課題の共有や課題解消に向けた取組みを図る。特に、生涯学習をととした人材育成の場である公民館が情報を収集したり、知識や経験を還元する役割を担って行くことが望まれている。				
学識経験者の意見	地域の環境・文化・歴史に子ども達が興味を持つこと、それを地域住民がサポートすることは良い試みであると考え。成果も充実しており評価したい。				

39 家庭教育支援推進事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	493 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	親の学びや子の育ちを応援するため、地域の多様な人材で構成する「家庭教育支援チーム」を設置し、子育て講座や相談窓口の開催により家庭教育に関する情報提供を行ったほか、チーム員への継続的な研修機会の提供により、地域全体で家庭教育を支援するための体制づくりを進めた。				
評 価 指 標	研修会への参加、各種講座やサロンブースの展開				
成果と課題	子育て世代と地域住民や保育関係者等が家庭教育への理解を深めるため、おもちゃ作家によるものがたりライブや家庭教育に関する講座を開催し、子育て関係者に必要な情報提供を行うことができた。今後、保育園や小中学校・地域単位における課題に対応するため、各園・学校単位での家庭教育講座の開催やニーズ把握に努める必要がある。				
今後の方向性	家庭教育講座については、「家庭教育支援チーム推進事業」として、保育園・学校と家庭教育支援チームの協働により実施していく。				
学識経験者の意見	ニーズを把握し、内容を工夫しながら、実施に努められたい。				

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
費用対効果……1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

40 伊勢堂岱遺跡世界遺産登録推進事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	2,107 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	5 (5) 拡大
活 動 内 容	「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産に向けた登録推進事業の経費を負担することにより、世界遺産登録へ向けたPR活動や関係する縄文遺跡へ統一サイン(看板)を設置した。また、秋田駅ばぼろーどにおいて、伊勢堂岱ワーキンググループとジュニアボランティアガイドが伊勢堂岱遺跡のPR活動を行った。				
評 価 指 標	世界遺産登録に向けた推進事業の経費を負担することにより、遺跡の価値について情報発信等を行う。				
成果と課題	「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産に向けた登録推進事業の経費を負担することにより、事業の円滑な執行を図ることができた。国からユネスコへ世界文化遺産の候補として推薦された。登録に向け、引き続き取り組む。また、ボランティアガイドの活動について支援して行く必要がある。				
今後の方向性	世界遺産登録を目指す。(専門機関による現地調査、世界遺産委員会での審議、登録決定の流れとなり、最短で2021年の登録となる。)				
学識経験者の意見	世界遺産登録に向けて、機運が高まっている中で、不透明な部分も多いとは思いますが、継続実施を図られたい。期待している。				

41 縄文まつり開催事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	300 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	3 (3) 予想以上	3 (3) 不可欠	4 (5) 継続
活 動 内 容	第19回縄文まつりを開催し、縄文文化及び伊勢堂岱遺跡の情報発信と各種の体験事業を行い参加者の交流を図った。 体験事業：①土器土偶づくり ②勾玉づくり ③火おこし ④手ぬぐいスタンプ体験 ⑤縄文写真 ⑥カラムシ織り体験 ⑦縄文クイズ ⑧縄文料理(イノシシ鍋) ⑨ささえカフェ ⑩ミニコンサート など				
評 価 指 標	北秋田市の宝である伊勢堂岱遺跡について、子どもたちをはじめ市民に遺跡の価値を伝えるため、縄文まつりを開催し、世界遺産登録へ向けたPRを行う。				
成果と課題	縄文文化及び伊勢堂岱遺跡を市内外の約600名に情報発信することができた。今後は伊勢堂岱遺跡に来たことがない市民にも、来場してもらうよう情報発信する必要がある。				
今後の方向性	継続して実施し、より多くの方が訪れてくれるよう内容を充実させることで、世界遺産登録に向け機運を高める。伊勢堂岱遺跡について、市の広報誌やホームページを活用し定期的に情報発信する。				
学識経験者の意見	来場者への情報発信が上手く機能すること、世界遺産登録に向けた調査や活動により機運が高まっているため、継続実施に努められたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

42 交流センター管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	12,619 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	市民の交流や活動の拠点施設として活用されるよう、管理委託・清掃委託及び各種保守点検委託による維持管理を行った。				
評 価 指 標	市内外から利用され、地域活動の拠点として活用されるよう施設維持を行う。				
成果と課題	適切な維持管理を行ったことで、市民の方々の交流の場と活動の拠点としての役割を果たすことができた。今後も市内外の利用者が研修や会議を行う施設として使用できるよう適切な管理を行う必要がある。				
今後の方向性	継続して市内外から地域活動の拠点施設として活用されるよう施設の維持管理を行う。				
学識経験者の意見	今後も地域活動の拠点として利用されるよう、維持管理に努められたい。				

43 交流センター改修事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	767 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	3 (2) 予想以上	2 (3) 高い	4 (2) 継続
活 動 内 容	建築から30年経過したことから外壁と屋根等の調査を行った。				
評 価 指 標	市民の交流や活動の拠点施設として活用されるよう、施設の設備改修を行う。				
成果と課題	外壁と屋根等の調査を行ったことにより指摘があった箇所について、改修計画を立て計画的に実施することができる。外壁や屋根以外についても日常的な点検を行い、利用者が快適に使用できるように施設整備を行う必要がある。				
今後の方向性	長期的な視点で今後必要となる改修について、計画を立て改修を行う。				
学識経験者の意見	計画的な施設整備を図られたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

44 図書館事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	15,428 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (5) 継続
活 動 内 容	市内の2図書館（鷹巣・森吉図書館）、2図書室（合川・阿仁公民館図書室）は市民の学習施設として学習の場の提供のため、施設の維持管理と図書の充実を図った。また、図書システムの更新、図書館だよりの発行、図書館体験デーの実施、読書感想文・感想画コンクールを行った。年2回図書館協議会を開催した。				
評 価 指 標	図書の充実と利用者の利便性やサービスの向上に努め、利用者を増やす。				
成果と課題	市内の2図書館、2図書室は県立図書館などと相互協力を図り、本の取り寄せなどのサービスを行った。また、図書システムの更新をしたことで利用者の利便性が維持された。また、図書館体験デーに年長児169名が参加した。2019年度～2023年度までの第2期北秋田市子ども読書活動推進計画の概要版を作成し、認定こども園・保育園の園児と小中学校の児童生徒へ配布した。今後は関係機関と連携を図りながら子ども読書活動の推進を図る必要がある。 *貸出カード作成枚数 H30年度：151枚 R1年度：149枚				
今後の方向性	現在実施している図書館業務の継続と利用者の利便性に繋がる取り組みを行う。				
学識経験者の意見	関係機関と連携を図りながら、図書館業務の効率化に努められたい。				

45 文化会館管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	36,738 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	芸術文化活動の場として利用できるよう施設の維持管理を行った。また、年2回文化会館運営委員会を開催した。自主事業としてファルコン民謡祭、ドラムタオによる太鼓演奏のステージ、秋田県立近代美術館と共催の出前美術館等を実施した。				
評 価 指 標	市民が芸術・文化活動に使用できるよう施設の維持管理を行う。				
成果と課題	適切な維持管理や保守点検等を行うことにより、市民の方々が安心して利用できる施設や設備を維持できた。また、市の文化祭の開催や市内外の芸術活動の発表の場として活用され、芸術文化の振興が図られた。建設から約30年となるため、長期的視点での施設の維持管理が必要である。また、管理運営計画を作成し長期的な管理運営の指針とする必要がある。				
今後の方向性	市内にある唯一の文化施設として、活用の充実と長期的に使用できるよう維持管理を行う。また、文化施設としての在り方、常に立ち寄りたくなるような企画展を実施する。				
学識経験者の意見	評判の良い企画展については、市民のみならず近隣市外の方から期待を寄せる声もあり、評価される。今後も継続して企画運営に努められたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下)

費用対効果………1＝課題あり(90%以下)

必要性………1＝低い

方向性………1＝廃止・休止(終了)

2＝期待どおり(90%超)

2＝予定どおり(90%超)

2＝高い

2＝縮小

3＝期待以上(100%超)

3＝予想以上(100%超)

3＝不可欠

4＝継続

5＝拡大

46 文化会館改修事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	13,337 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		3 (3) 期待以上	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	トイレ洋式化工事、みんなのトイレ改修工事、ホール音響システム交換工事を行った。				
評 価 指 標	市民が安心して芸術・文化活動できるよう施設の改修を行う。				
成果と課題	大ホールのホワイエにあるトイレをすべて洋式トイレにしたこと、みんなのトイレを改修したことにより、利用者の利便性が向上した。また、ホールのスピーカーを更新したことで音質が改善された。建設から約30年となるため、長期的視点での施設の維持管理を行う必要がある。				
今後の方向性	今後は長期的な改修計画を立て、利用者が快適に使用できるよう施設整備を行う。				
学識経験者の意見	利用者が安心、快適に利用できる施設の整備に継続して努められたい。				

47 みちのく子供風土記館管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	360 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	直木賞作家であった渡辺喜恵子氏を顕彰する建物であり、市民の交流活動の拠点として利用されるよう施設の維持管理を実施し、利用向上に努めた。				
評 価 指 標	市民が学習や交流の場として使用できるよう施設の維持管理を行う。				
成果と課題	適切な維持管理を行った。また、北秋田市ゆかりの美術工芸家の神成滯氏の作品展を実施し、市民が作品を身近に感じる機会となった。課題であった予約期間を3ヶ月前に変更した。今後、直木賞作家の渡辺喜恵子氏の顕彰施設としての知名度を上げる工夫する必要がある。				
今後の方向性	適切な維持管理を行い、建設された目的と想いに沿った使い方とより多くの市民の学習や交流の場となるよう、運営のあり方を検討していく。				
学識経験者の意見	顕彰施設であることのアピールに工夫を図られたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

48 浜辺の歌音楽館運営事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	5,795 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	3 (3) 予想以上	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	成田為三先生の業績や楽曲を音楽博物館として顕彰し、後世に引き継いでいくため施設の維持管理を実施した。墓前演奏会・少年少女合唱団のコンサートを実施し、成田為三先生の音楽に触れる機会の充実に努めた。				
評 価 指 標	成田為三先生の楽曲を後世に継承するため音楽博物館として施設の維持管理を行う。				
成果と課題	浜辺の歌音楽館の入館料を4月から無料にした。今後、より多くの人に訪れてもらうための工夫する必要がある。				
今後の方向性	開かれた音楽館を目指し市民が定期的に利用できるような運営に努める。また、博物館として展示等の工夫に努める。				
学識経験者の意見	グッズ販売等好評であり、今後、来館者の増を目指し、より工夫を凝らした運営を図られたい。				

49 浜辺の歌音楽祭開催事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	535 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	1 (2) 課題あり	2 (3) 高い	4 (4) 継続
活 動 内 容	成田為三先生の功績を称え、楽曲を後世に引き継いでいくため、児童生徒及び一般の合唱団を対象に第14回浜辺の歌音楽祭を開催した。 参加団体：21団体19演目 記念演奏：加登萌々子（ヴァイオリン）				
評 価 指 標	成田為三先生の楽曲を後世に引き継ぐため、子どもから一般の合唱団を対象に音楽祭を開催する。				
成果と課題	全体合唱の「浜辺の歌」「秋田県民歌」、記念演奏の「浜辺の歌」「望郷の歌」などの成田為三先生の楽曲の演奏を通じ、周知・継承できた。また発表の場を設けることで相互の音楽活動の機会創出と向上につながった。今後、参加校の対応に相違があるため、音楽祭の開催方法等について議論を詰める必要がある。				
今後の方向性	成田為三先生の楽曲を後世に引き継いでいくため、内容を再検討しながら継続していく。				
学識経験者の意見	継続実施が大切であることから、開催方法については、常に検討されたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

50 文化祭開催事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	1,933 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (3) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	市の補助を受け文化祭実行委員会により開催した。演示部門は46団体が51演目に出演し、展示部門には1,184点の展覧があった。				
評 価 指 標	市民へ芸術文化活動の発表及び鑑賞の機会を提供する。				
成果と課題	市民に芸術文化の発表と文化交流の場を提供することで、市内における文化の活性化と振興が図られた。今後は若い世代にも出演や出展をしてもらえるような取り組みが必要である。				
今後の方向性	市民へ芸術文化活動の発表及び鑑賞機会の提供のほか、芸術文化を体験できる機会の提供を行う。				
学識経験者の意見	文化祭事業は伝統文化継承にも役立っている。今後も継続して文化の振興を図りたい。				

51 伊勢堂岱遺跡縄文館管理事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	20,868 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	伊勢堂岱遺跡の理解を深めるとともに、その魅力と情報を発信する施設の維持管理を行った。また、市景観計画案の策定、遺跡内の県有地（道路敷地）の購入を行った。				
評 価 指 標	伊勢堂岱遺跡の理解を深めるための情報発信施設の役割を果たし、来館者を増やす。				
成果と課題	適切な維持管理とホームページの更新を行ったことで、伊勢堂岱遺跡の情報発信施設として来館者の利便性が確保された。また、遺跡内においても来館者が安心して見学できるよう草刈による環境維持と電気柵などの管理を行ったことにより安心安全が図られた。 世界遺産登録のため、市景観計画の策定、遺跡内の県有地（道路敷地）の購入を行ったことにより条件整備が図られた。 世界遺産登録後を踏まえ、海外からの来館者の対応も含め、満足度を高めるため見学環境の維持と販売グッズの充実を図る必要がある。				
今後の方向性	来館者が安心して見学できる環境を維持しながら、伊勢堂岱遺跡の理解を深めるための情報発信施設の役割を果たす。				
学識経験者の意見	小学生が総合的学習やコミュニティスクールで見学に訪れているケースもあり、情報発信施設として機能している。今後、継続して事業実施に取り組まれない。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

52 日本遺産事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	758 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 - 期待どおり	2 - 予定どおり	3 - 不可欠	2 - 縮小
活 動 内 容	阿仁マタギの日本遺産認定に向け、日本遺産事業推進協議会並びに作業部会を開催した。また、マタギシンポジウムの開催や他市町村のイベントへの参加などによるPR活動を実施した。				
評 価 指 標	日本遺産の認定を受ける。阿仁マタギのPRを行う。				
成果と課題	マタギシンポジウムを開催し、市内外に広くマタギをPRできたほか、大館きりたんぼ祭りへの参加や協議会構成団体でも各自PR活動を積極的に行い、広くPRすることができた。また、協議会や作業部を開催し、令和2年度日本遺産申請ストーリー及び活性化計画について魅力あるものを作成し、申請したが残念ながら認定されなかった。				
今後の方向性	日本遺産認定は今年度が最終年度。今後は阿仁マタギの積極的な情報発信や環境整備により魅力向上を図りながら、地域の皆様と共に後世に引き継ぐ取組を進める。また、申請書のストーリーなどを活用し、市民等に阿仁マタギを紹介する。				
学識経験者の意見	生涯学習課としては文化財保護という立場で、一旦、事業の方向性が「縮小」ということ。事業活用面では観光分野や移住定住における阿仁マタギ体験メニュー等があり、今後、担当課と連携して引き続き情報の共有を図られたい。				

53 文化財保護事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	2,508 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続
活 動 内 容	文化財保護審議会の開催や文化財保護のための維持管理を行った。				
評 価 指 標	市内の文化財の維持管理、文化財の保護などを行う。				
成果と課題	文化財保護審議会の開催により文化財の保護の方針が再確認された。また、「葛黒火まつりかまくら」が無形民俗文化財として市指定を受けた。市内の指定文化財について現状確認ができた。 今後も指定文化財の現状確認の継続、古文書の集約と適切な保存が必要とされている。				
今後の方向性	引き続き文化財の維持管理、文化財の保護、指定文化財の現状確認、古文書の集約と適切な保存管理を行う。また、未指定文化財の指定に向け調査研究を進める。				
学識経験者の意見	指定文化財の現状確認や、未指定の調査研究に努められたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

54 民俗芸能大会事業				主管課	生涯学習課
決 算 額	403 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	1 (2) 課題あり	2 (3) 高い	4 (4) 継続
活 動 内 容	北秋田市民俗芸能大会を開催し、北秋田市に伝承されている民俗芸能等を広く市民に公開するとともに、民俗芸能伝承活動とあわせて技量の向上を支援した。 出演団体：①綴子下町大太鼓保存会②阿仁からめ節保存会 ③前山郷土芸能保存会④八木沢番楽保存会（上小阿仁村）				
評 価 指 標	民俗芸能団体へ発表の場を提供し、民俗芸能の保存と伝承を行う。				
成果と課題	発表の場の提供により伝承者の意欲と技量の向上につながった。また、他市町村の民俗芸能団体の出演により、出演者同士の交流が図られたほか、市民に鑑賞してもらうことで、民俗芸能の良さや伝承の大切さを周知できた。さらに、来年度の大会開催について関係団体と協議を行ったが引き続き今後は出演団体の確保のため、休止中などの団体が活動できる支援が必要となってくる。				
今後の方向性	開催について関係団体と協議しながら、継続して開催する。				
学識経験者の意見	今後も様々な手法を検討し、伝承に繋げられたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

55 北秋田市民プール管理運営事業				主管課	スポーツ振興課																	
決 算 額	18,900 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)																	
		2 (2) 期待どおり	3 (3) 予想以上	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続																	
活 動 内 容	指定管理制度による公の施設の管理運営事業。 平成27年度から令和元年度までの5年間の指定管理者を選定した。																					
評 価 指 標	幅広い年代の健康増進及び交流施設としての維持に努める。																					
成果と課題	施設利用人数は平成27年度52,205名、平成28年度54,215名、平成29年度55,887名、平成30年度56,098名、令和元年度は58,799人となっている。利用者は年々増加傾向を維持し、利用者増加につなげるため、自主事業として、高齢者向けのウォーキング教室の開催など指定管理者による運営成果が現れているといえる。 しかし、トレーニング機器や設備に故障・破損等がみられるので、維持更新等について計画を定め、指定管理者と連携して運営に努めたい。 今年度は採暖室改修工事（3,653千円）、トレーニングルームエアコン設置工事（2,319千円）を実施し、施設の長寿命化を図った。（設計委託費含む。）																					
	人 北秋田市民プール利用者数 <table><thead><tr><th>年度</th><th>利用者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>H24</td><td>45,266</td></tr><tr><td>H25</td><td>48,309</td></tr><tr><td>H26</td><td>45,704</td></tr><tr><td>H27</td><td>52,205</td></tr><tr><td>H28</td><td>54,215</td></tr><tr><td>H29</td><td>55,887</td></tr><tr><td>H30</td><td>56,098</td></tr><tr><td>R1</td><td>58,799</td></tr></tbody></table>					年度	利用者数	H24	45,266	H25	48,309	H26	45,704	H27	52,205	H28	54,215	H29	55,887	H30	56,098	R1
年度	利用者数																					
H24	45,266																					
H25	48,309																					
H26	45,704																					
H27	52,205																					
H28	54,215																					
H29	55,887																					
H30	56,098																					
R1	58,799																					
今後の方向性	建物及び設備の長寿命化を図るため計画的な維持管理に努める。																					
学識経験者の意見	高齢者の健康維持という観点からも施設の評価は高く、利用者数が増加している。今後のデータを細分化して、利用者のほか、目的別、年代別等の統計を取ること、より良い運営維持に活かせると思われる。																					

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果……1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

56 薬師山スキー場管理運営事業				主管課	スポーツ振興課																		
決 算 額	3,293 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)																		
		(2)	(2)	3 (3)	4 (4)																		
		評価対象外	評価対象外	不可欠	継続																		
活 動 内 容	指定管理制度による公の施設の管理運営事業。 平成27年度から令和元年度までの5年間を引き続き自治会を指定管理者とし管理運営を行っている。																						
評 価 指 標	季節及び地域特有のスポーツ施設として継続するための経営維持に期待する。																						
成果と課題	全国的に記録的な雪不足の影響で、1月、2月合わせて営業日が20日間と、今までに例の無い営業日数となり、利用者数は1,725人と大きく減少した。短い営業期間であったが、バイアスロンへの練習会場の提供や市内・市外のスキー教室での利用状況など、雪不足の中、コースへの雪付け作業など、地元自治会の努力が現れていた。 指定管理制度で地域自治会が運営することで、様々なサービスを提供することが可能となり、地域の活性化や地域コミュニティの醸成が図られている。 昨年度も課題としていた、ナイター設備等の経年劣化への対応が手付かずのまま残ってしまったが、利用者が広域にわたっている施設であるので、できるだけ早急に対策を施したいと考える。 薬師山スキー場利用者数 <table><thead><tr><th>年度</th><th>利用者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>H24</td><td>9112</td></tr><tr><td>H25</td><td>7711</td></tr><tr><td>H26</td><td>14526</td></tr><tr><td>H27</td><td>5903</td></tr><tr><td>H28</td><td>4899</td></tr><tr><td>H29</td><td>8953</td></tr><tr><td>H30</td><td>8285</td></tr><tr><td>R1</td><td>1725</td></tr></tbody></table>					年度	利用者数	H24	9112	H25	7711	H26	14526	H27	5903	H28	4899	H29	8953	H30	8285	R1	1725
年度	利用者数																						
H24	9112																						
H25	7711																						
H26	14526																						
H27	5903																						
H28	4899																						
H29	8953																						
H30	8285																						
R1	1725																						
今後の方向性	指定管理事業者と連携し、施設維持に努める。																						
学識経験者の意見	記録的な雪不足により、予定していた企画の中止や稼働日数が大きく減少したため、評価基準に当てはめることが困難である。地域特有のスポーツを推進する事業として、今後も継続実施を図りたい。																						

【評価基準】

有効性……………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果……1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性……………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性……………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

57 100キロチャレンジマラソン大会補助事業				主管課	スポーツ振興課																										
決 算 額	3,000 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)																										
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	3 (3) 不可欠	4 (4) 継続																										
活 動 内 容	大会運営のため補助金を交付し、円滑な大会運営と参加者の交流及び地域の活性化を図る。																														
評 価 指 標	100キロの部1,350名、50キロの部350名（定員1,700名）																														
成果と課題	県内外から100キロの部に1,043名、50キロの部に383名、合計1,426名のランナーが参加し、秋田県を始め、仙北市、北秋田市、上小阿仁村、自衛隊、消防、企業、ボランティア（約2,600名）の協力により実施され成功裡に終了した。地域のイベントとして根付いており、仙北市、北秋田市周辺への宿泊数としても、地域への経済効果が図られるとともに参加ランナーと地域住民の交流により地域の活性化が図られている。 一方で、参加者が減少傾向にあること、ボランティアの高齢化やスタッフの固定化で後継者が育っていないことから、今後の円滑な大会運営のための支援について対策を協議する必要がある。																														
	100キロチャレンジマラソン参加者数・宿泊者数 <table><thead><tr><th>年度</th><th>参加者数</th><th>宿泊者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>H24</td><td>1708</td><td>1127</td></tr><tr><td>H25</td><td>1726</td><td>1195</td></tr><tr><td>H26</td><td>1603</td><td>1028</td></tr><tr><td>H27</td><td>1702</td><td>1114</td></tr><tr><td>H28</td><td>1500</td><td>995</td></tr><tr><td>H29</td><td>1469</td><td>841</td></tr><tr><td>H30</td><td>1447</td><td>1042</td></tr><tr><td>R1</td><td>1426</td><td>1014</td></tr></tbody></table>					年度	参加者数	宿泊者数	H24	1708	1127	H25	1726	1195	H26	1603	1028	H27	1702	1114	H28	1500	995	H29	1469	841	H30	1447	1042	R1	1426
年度	参加者数	宿泊者数																													
H24	1708	1127																													
H25	1726	1195																													
H26	1603	1028																													
H27	1702	1114																													
H28	1500	995																													
H29	1469	841																													
H30	1447	1042																													
R1	1426	1014																													
今後の方向性	大会の継続に向け、実行委員会・秋田県・仙北市と連携し継続開催に努める。																														
学識経験者の意見	定着された事業であり、継続開催に支援を図られたい。また、参加者の満足度分析を研究されたい。																														

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

58 北秋田市スキー大会等補助事業				主管課	スポーツ振興課
決 算 額	135 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		(2)	(2)	3 (3)	4 (4)
		評価対象外	評価対象外	不可欠	継続
活 動 内 容	北秋田市スキー大会実行委員会が実施するスキー大会及び県民歩くスキーのつどい開催のため補助金を交付し、事業の円滑な運営と雪国の特性を活かしたスポーツ活動の推進を図る。				
評 価 指 標	季節・地域特有の自然環境におけるスポーツに取り組むことで、地域への親しみと体力・精神力を育み将来的に競技者への足がかりとしてもらう。				
成果と課題	第13回北秋田市民スキー大会兼第65回北秋田学童スキー大会（雪不足のため中止） 第54回大館・北秋田スキー米内沢大会（チェアリフト改修不能による大会中止） 第40回県民歩くスキーのつどい（雪不足のため中止） 地域の自然条件におけるスポーツ環境の提供と活動推進のための事業であったが、全国的にも記録的な雪不足の影響により、実施予定であった大会が中止となっている。 また、大館・北秋田スキー米内沢大会は、3年連続の中止となった。				
今後の方向性	開催方法等について検討しながら継続開催に努める。				
学識経験者の意見	雪不足のために、関係者が準備に奔走したものの、やむなく中止となったため、評価基準に当てはめることが困難である。地域特有のスポーツを推進する事業として、今後も継続実施を図られたい。				

59 北秋田市スポーツ大会出場費補助事業				主管課	スポーツ振興課
決 算 額	1,249 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (3)	2 (2)	2 (2)	4 (4)
		期待どおり	予定どおり	高い	継続
活 動 内 容	全県大会以上の大会派遣費を補助する事により、スポーツ活動への参加を助長し、児童生徒の心身の健全な育成及びスポーツ活動の底辺拡大と振興を図る。				
評 価 指 標	大会出場経費に関する不安要素を軽減することで、スポーツ活動に取り組みやすい環境づくりを行う。				
成果と課題	全県大会、東北大会、全国大会出場の22団体（34件）に対して参加費・交通費・宿泊費の一部を補助した。前年度と同件数の補助となり、東北・全国大会出場団体は8団体と昨年度と比べ減少したが、上位大会出場という目標を持って、スポーツ活動に取り組んでおり、目標達成のためには本事業は有効である。 昨年度よりジュニアスポーツ団体の活動が多様化してきたことで、スポーツ少年団以外のスポーツ団体を対象としたことにより、4団体の申請があった。				
今後の方向性	保護者の負担軽減を図ることから継続とする。				
学識経験者の意見	子どもたちの頑張りは、地域の元気に繋がることから、継続実施を図られたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果………1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

60 北秋田市スポーツ大会開催補助事業				主管課	スポーツ振興課
決 算 額	368 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 (2) 期待どおり	2 (2) 予定どおり	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活 動 内 容	北秋田市内で開催されている一定規模の大会へ経費の一部を補助する。				
評 価 指 標	競技大会を開催することにより、競技力の向上を図る。				
成果と課題	全県規模2件、県北・市郡規模4件の大会開催の補助をした。全県大会など一定規模の大会が継続的に開催されることにより、活動目標を定められ地域における競技力の強化が図られる。 県内各地において各種競技大会が増えている傾向にあるため、団体に対し新規大会の開催を促すことは困難である。				
今後の方向性	競技協会に対し、現在開催されている大会の継続を働きかける。				
学識経験者の意見	今後も地域間交流が拡大するよう、支援に努められたい。				

61 北秋田市スポーツ文化合宿等誘致促進事業				主管課	方向性
決 算 額	579 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		3 (2) 期待以上	3 (2) 予想以上	2 (2) 高い	4 (4) 継続
活 動 内 容	市外に存するスポーツ・文化活動団体に対し、北秋田市内において合宿することを誘致促進を図る。				
評 価 指 標	市外からの団体を受け入れることにより、関係する地元団体との交流促進及び地域活性化を図る。				
成果と課題	前年度と比較し、1団体増加し、2団体への補助を行なった。県内各地の中学生・高校生との合同練習会や講演会や実技指導を開催することで、地域との交流や貴重な指導を受けることができ、競技力向上のための有意義な機会とすることができた。				
今後の方向性	競技協会等にPRすることにより継続を図る。				
学識経験者の意見	地元団体と交流していることは有意義であり、評価したい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
 費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
 必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
 方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

62 体育館維持補修事業				主管課	スポーツ振興課
決 算 額	3,567 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 - 期待どおり	2 - 予定どおり	2 - 高い	4 - 継続
活 動 内 容	鷹巣体育館（サブ体育館）へ新たに遮光カーテンの設置及び鷹巣体育館の施設名の看板設置を行なう。				
評 価 指 標	利用者の利便性の向上及び施設の付帯施設の長寿命化を図る。				
成果と課題	サブ体育館へ新たに遮光カーテンを設置することで、利用環境の整備が図られ、利用者の利便性の向上を図ることができた。また、老朽化した鷹巣体育館の施設名看板については、従来の位置から移動することで、利用者の認識がしやすくなった。				
今後の方向性	建物及び設備の長寿命化を図るため、計画的な維持管理に努める。				
学識経験者の意見	安全に施設利用ができるように計画的な維持に努められたい。				

63 野球場維持補修事業				主管課	スポーツ振興課
決 算 額	36,300 千円	有効性 (H30)	費用対効果 (H30)	必要性 (H30)	方向性 (H30)
		2 - 期待どおり	2 - 予定どおり	2 - 高い	4 - 継続
活 動 内 容	森吉野球場の照明鉄塔並びに照明の付帯施設の高圧受変電設備及びスコアボードの撤去を行う。				
評 価 指 標	利用者の安心・安全な利用環境を確保する。				
成果と課題	老朽化の著しい森吉野球場の照明鉄塔並びに照明の付帯施設の高圧受変電設備及びスコアボードを撤去したことで、利用者の安心・安全な利用環境を確保することができた。				
今後の方向性	森吉野球場については、照明鉄塔並びに照明の付帯施設である高圧受変電設備及びスコアボードを撤去したが、従来どおりの球場としての活用や多様なスポーツニーズに応じた施設環境の充実を図って行きたい。				
学識経験者の意見	今後の施設の利用について、利用者の動向、協議内容も見極めながら、継続実施に取り組まれたい。				

【評価基準】

有効性………1＝期待以下(90%以下) 2＝期待どおり(90%超) 3＝期待以上(100%超)
費用対効果…1＝課題あり(90%以下) 2＝予定どおり(90%超) 3＝予想以上(100%超)
必要性………1＝低い 2＝高い 3＝不可欠
方向性………1＝廃止・休止(終了) 2＝縮小 3＝統合 4＝継続 5＝拡大

令和元年度

北秋田市教育委員会点検・評価報告書

発	行	令和2年10月
発行責任者		北秋田市教育委員会総務課
所	在	地
		北秋田市花園町15番1号
		北秋田市役所第二庁舎
T	E	L
		0186-62-6616
F	A	X
		0186-63-2678